

第七十五回帝國議會
衆議院

所得稅法改正法律案外三十件委員會議錄(速記)第六回

付託議案

所得稅法改正法律案(政府提出)(第七號)
法人稅法案(政府提出)(第八號)
特別法人稅法案(政府提出)(第九號)
配當利子特別稅法案(政府提出)(第十號)
外債特別稅法案(政府提出)(第十一號)
相續稅法中改正法律案(政府提出)(第十二號)
建築稅法案(政府提出)(第十三號)
礦區稅法案(政府提出)(第十四號)
臨時利得稅法中改正法律案(政府提出)(第十五號)
營業稅法案(政府提出)(第十六號)
地租法中改正法律案(政府提出)(第十七號)
酒稅法案(政府提出)(第十八號)
清涼飲料稅法中改正法律案(政府提出)(第十九號)
砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出)(第二十號)
織物消費稅法中改正法律案(政府提出)(第二十一號)
揮發油稅法中改正法律案(政府提出)(第二十二號)
物品稅法案(政府提出)(第二十三號)
遊興飲食稅法案(政府提出)(第二十四號)
取引所稅法中改正法律案(政府提出)(第二十五號)
通行稅法案(政府提出)(第二十六號)
入場稅法案(政府提出)(第二十七號)
印紙稅法中改正法律案(政府提出)(第二十八號)
骨牌稅法中改正法律案(政府提出)(第二十九號)
狩獵法中改正法律案(政府提出)(第三十號)
明治四十四年法律第四十五號中改正法律案(政府提出)(第三十一號)
砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出)(第三十二號)
大正九年法律第五十一號中改正法律案(內地臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ內國稅免除ニ關スル件)(政府提出)(第三十三號)
支那事變特別稅法及臨時租稅增徴法廢止法律案(政府提出)(第三十四號)
營業收益稅法廢止法律案(政府提出)(第三十五號)
資本利子稅法廢止法律案(政府提出)(第三十六號)
法人資本稅法廢止法律案(政府提出)(第三十七號)
臨時租稅措置法中改正法律案(政府提出)(第三十八號)
地方稅法案(政府提出)(第三十九號)
地方分與稅法案(政府提出)(第四十號)
府縣制中改正法律案(政府提出)(第四十一號)
市制中改正法律案(政府提出)(第四十二號)
町村制中改正法律案(政府提出)(第四十三號)
北海道會法中改正法律案(政府提出)(第四十四號)
北海道地方費法中改正法律案(政府提出)(第四十五號)
三號)
五三號)
地方分與稅分與金特別會計法案(政府提出)(第四十六號)
(第五十四號)

會議

昭和十五年二月二十二日(木曜日)午前十時
二十七分開議
出席委員左ノ如シ

委員長 堀切善兵衛君

理事小山倉之助君 理事濱野徹太郎君

理事木村 淺七君 理事高橋熊次郎君

理事小笠原三九郎君 理事立川 平君

理事河野 密君

山本 糸吉君 池本甚四郎君

川崎末五郎君 內藤 正剛君

長野 長廣君 愛野時一郎君

川崎 克君 津倉 龜作君

渡邊玉三郎君 塚本 三君

伊藤 五郎君 石井德久次君

船田 中君 宮本雄一郎君

山川賴三郎君 豐田 收君

森 肇君 森田 福市君

板谷 順助君 西川 貞一君

瀧澤 七郎君 小見山七十五郎君

鈴木 英雄君 田万 清臣君

松永 義雄君 佐竹 晴記君

石坂 繁君 青木 作雄君

藤本 捨助君 北 勝太郎君

武田德三郎君

二月二十一日委員池田七郎兵衛君、澤田利吉君及中村三之丞君辭任ニ付其ノ補闕トシテ石井德久次君、塚本三君及川崎末五郎君ヲ議長ニ於テ選定セリ

出席國務大臣左ノ如シ

大藏大臣 櫻内 幸雄君

出席政府委員左ノ如シ

內閣統計局長 川島 孝彦君

內務省地方局長 挾間 茂君

內務書記官 三好 重夫君

大藏政務次官 木村 正義君

大藏參與官 松田 正一君

大藏省主稅局長 大矢半次郎君

大藏省理財局長 相田 岩夫君

大藏書記官 植木庚子郎君

大藏書記官 田中 豐君

大藏書記官 山田 義見君

大藏書記官 池田 勇人君

營繕管財局理事 松隈 秀雄君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

所得稅法改正法律案(政府提出)

法人稅法案(政府提出)

特別法人稅法案(政府提出)

配當利子特別稅法案(政府提出)

外貨債特別稅法中改正法律案(政府提出)

相續稅法中改正法律案(政府提出)

建築稅法案(政府提出)

礦區稅法案(政府提出)

臨時利得稅法中改正法律案(政府提出)

營業稅法案(政府提出)

地租法中改正法律案(政府提出)

酒稅法案(政府提出)

清涼飲料稅法中改正法律案(政府提出)

砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出)

織物消費稅法中改正法律案(政府提出)

揮發油稅法中改正法律案(政府提出)

物品稅法案(政府提出)

造興飲食稅法案(政府提出)

取引所稅法中改正法律案(政府提出)

通行稅法案(政府提出)

入場稅法案(政府提出)

印紙稅法中改正法律案(政府提出)

骨牌稅法中改正法律案(政府提出)

狩獵法中改正法律案(政府提出)

明治四十四年法律第四十五號中改正法律

案(砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收ニ關スル件)(政府提出)

大正九年法律第五十一號中改正法律案

(内地臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ内國稅免除ニ關スル件)(政府提出)

支那事變特別稅法及臨時租稅增徴法廢止法律案(政府提出)

營業收益稅法廢止法律案(政府提出)

資本利子稅法廢止法律案(政府提出)

法人資本稅法廢止法律案(政府提出)

臨時租稅措置法中改正法律案(政府提出)

地方稅法案(政府提出)

地方分與稅法案(政府提出)

府縣制中改正法律案(政府提出)

市制中改正法律案(政府提出)

町村制中改正法律案(政府提出)

北海道會法中改正法律案(政府提出)

北海道地方費法中改正法律案(政府提出)

地方分與稅分與金特別會計法案(政府提出)

出

○堀切委員長 ソレデハ是ヨリ開會致シマス、今日ハ御要求ノアリマシタ總理ガ御見エニナリマセスガ、幸ヒ内閣統計局長ガ御見エニナツテ居ルノデ、國民所得、國富ト云フ點ヲ一ツ御説明願フコトニ致シマス——統計局長

○川島政府委員 國民所得ノコトニ付キマシテ御説明ヲ申上ゲマス、統計局デ調査ヲ致シテ居リマスル國民所得ハ、大正十四年ニ第一回調査ヲ致シマシテ、其ノ後昭和五年、昭和十年ト今マデ三回調査ヲ致シテ居ルノデアリマス、此ノ國民所得ノ統計ノ趣旨トスル所ハ、國民各個人ガ一年ニ經濟活動ヲ致シマシテ、其ノ結果金錢的ノ所得ガ幾ラデアルカ、ソレヲ全國總計ヲシテドノ位ニナルカト云フコトヲ推計スルノガ趣旨

デアリマス、併シナガラ現在ノヤウナ統計ノ制度組織ガ、マダ十分ニ整ツテ居リマセヌ我國ニ於キマテハ、ソレヲ統計的ニ見テ、十分ニ確實ナ推計ヲスルコトハ非常ニ困難デアリマスノデ、現在デハ出來得ル限りノ所デ一應ノ推計ヲ出シテ居ル次第デアリマス、デアリマスカラ其ノ國民所得ト致シマシテ、統計局ガ發表致シマス數字ハ、實際トハ相當ノ開キガアリマスノデ、其ノ開キガ凡ソドノ位デアルカト云フコトニ付キマシテハ、後程モ御説明申上ゲマスガ、的確ニ其ノ誤差ヲ計ル尺度ガ別ニアリマセヌノデ、自然統計家或ハ國民所得ノ數字ヲ御使ヒニナル方々ノ御銘々ノ見積リト云フモノガ入ツテ來ルノデアリマス、隨テ一應此ノ國民所得ノ推計ノ方法ヲ御説明申上ゲマシテ、其ノ後デ數字ヲ申上ゲタガ方ガ御便利デアラウト思ヒマスノデ、少シ細クナリマスガ、其ノ推計ノ方法ヲ申上ゲマス

大體國民所得推計ノ方法ト致シマシテハ、國勢調査デ産業ニ關スル分類ト云フノヲ致シテ居リマス、農業、水産業、工業ト云フ風ニ國勢調査デ産業ノ分類ノ區別ヲ致シテ居リマスルガ、大體ソレト同ジヤウナ分類ニ依リマシテ、農業カラ得ル純收益、水産業カラ得ル純收益、鑛業カラ得ル純收益、工業カラ得ル純收益、商業カラ得ル純收益、交通業カラ得ル純收益、公務自由業及ビ家事ニ從事シテ居ル人ノ純收益、其ノ他ニ投資ヲ致シテ居ル人々ノ配當或ハ利益金、サウ云フ方面ノ國債投資及ビ事業ノ利得ノ差額、斯ウ云フハツノ項目ニ分ケマシテ各、調査ヲ致スノデアリマス、農業、水産業、鑛業、工業、商業、交通業、公務自由業及ビ家事就役、國債投資及ビ事業利得

ノ差額、斯ウ云フ風ナハツノ部門ニ分ケマシテ調査ヲ致シマス

其ノ調査ヲ致シマスル大體ノ立テ方ハ、統計局デ全國ニ互リマシテ、農業トカ水産業トカ云フ産業部門ニ就キマスル人々ニ付テ、標本ノニ或ル數ノ人ヲ調べマシテ、ソレカラ農業一戸當リノ大體ノ純收益ハ幾ラデアルカ、ソレガ其ノ農家ノ生産シマシタ農産物ノ價額ノ何分ニ當ツテ居ルカト云フ生産額ト純收益トノ割合ヲ先ニ出シマシテ、ソレカラ別ニ農林省、商工省或ハ大藏省其ノ他ノ各省ノ色々ナ生産額ノ統計ノ數字ヲ持ツテ參リマシテ、全體ノ生産額ニ付テ其ノ幾割ガ純收益ニ當ルモノデアルカト云フコトヲ、計算ニ依ツテ見出しテ行カウト云フ方法デゴザイマス、デアリマスカラ統計局デ實地ノ調査ヲ致シマスルモノハ標本調査デアリマシテ全般ニ及ビマセヌ、極ク僅カナモノヲ抽出シテ調べルノデアリマシマスルガ、其ノ統計局ノ實地調査ニ依リマス大體標準ノ收益歩合ヲ見マシテ、ソレヲ各官廳デ作ツテ居リマスル統計ノ生産額ニ掛合セマシテ、全體ノ利益總額ヲ見ヨウト云フ「システム」ヲ、大體ノ建前ト致シテ居リマス、併シナガラ實際ニ於キマシテハ、サウ云フコトノ出來ナイモノモアリマスルノデ、ソレ等ニ付テハ又別ノ方法ヲ用ヒテ居リマス、ソレデ多少煩雜ニ互リマスルガ、各部門部門ニ付テ申上ゲマス

農業ニ於ケル純收益ヲ推計致シマスルノニハ、農家ト農家デナイモノトニ分ケマシテ、農家ニ付キマシテハ、普通ノ農家ノ其ノ當時ノ世帯數ノ推計ノ數ノ約千分ノ三ニ相當スル戸數ヲ取りマシテ、其ノ戸數ハ昭和十年ノ時ニハ一萬六千九百二十戸デアリ

マスガ、此ノ約一萬七千バカリノ農家ニ付キマシテ調査票ヲ配リマシテ、サウシテ其ノ調査ヲ受ケスマル世帯ニ於テ、一年間ニ生産致シマシタ農産物總價額ノ金額、又其ノ生産ニ要シマスル種トカ、苗トカ、或ハ光熱藥劑、サウ云フ肥料代、飼料代、農具代ト云フヤウナ生産費ニ當ルモノノ金額ヲ申告サセマシテ、ソレニ依リマシテ純收益幾ラデアルカト云フコトヲ一戸々々ニ付テ出シマシテ、其ノ全體ノ平均ヲ出シマシテ、結局一萬七千ノ農家世帯ノ中デ、生産額ガ總額幾ラ、生産費トシテ見ラルベキモノガ幾ラト出シテ、其ノ純收益ト生産額總額トノ割合ヲ出シマス、サウシテ其ノ割合デ以テ、全國農家カラ出マシタ農産物ノ總價額ノ推計ヲ致シタモノニ、ソレヲ割當テマシテ、普通ノ農業ノ世帯ノ一年間ノ收益ヲ全部デ幾ラト、斯ウ云フ風ニ計算ヲ致シマス

ソレカラ農業收益ノ農家ノ方デナイ、其ノ他ノモノニ付キマシテハ、大體極クアラミノ見方デアリマスガ、養畜、養禽、詰リ養豚トカ養鶏ノヤウナモノヲ專門ニヤツテ居ル農家、ソレカラ林業ヲ專門ニヤツテ居ル家、サウ云フ世帯ニ付キマシテハ、極ク僅カノ數ノ世帯ニ付キマシテ純收益ヲ調べマシテ、ソレヲ養鶏或ハ養豚ヤツテ居ル世帯ノ總數ニ掛合セマス、或ハ林業者ノ總數ニ掛合セマシテ、養鶏或ハ養豚、或ハ林業ニ從事シテ居ル業者ノ純收益ヲ推計シテ參ルノデアリマス

ソレカラ第二ニ水産業ノ所得ヲ見マス爲ニハ、是ハヤハリ自營ノ水産業世帯ト申シマシテ、詰リ個人々々ノ普通ノ漁業者、ソ

レト大キナ組織ヲ持ツテ居リマス水產會社此ノ二ツニ分ケテ個人的ノ漁業者ニ付キマシテハ、ヤハリ全漁業者ノ千分ノ三ニ相當スル數、昭和十年ニ於キマシテハ約千七百六十五世帯デアリマスガ、其ノ千七百餘リノ世帯ニ付テ、ヤハリ調査票ヲ交付致シマシテ、ソレニ書入レサセテ、申告サセル、其ノ申告ニ基イテ大體農家ノ收入ヲ計ルト同ジヤウナ方法デ、總收入、總收益ヲ推計シテ參リマス、ソレカラ水產會社ニ付キマシテハ、是ハ水產會社ニ照會ヲ發シマシテ——是ハ特殊ノ經營狀態ヲ致シテ居リマスカラ、殆ド總テ水產會社ニ付テ調査ヲ致シマシテ、其ノ純收益ヲ合算致スノデアリマス

ソレカラ第三番目ノ鑛業ノ純收益ニ付キマシテハ、是ハ比較的十分ニ調べガ整ツテ居リマスノデ、總テノ鑛山ニ付キマシテ、鑛產物ノ總價額カラ其ノ鑛產物ノ生産ニ要スル生産費ヲ引キマシテ、ソレニ基イテ鑛業全體ノ純收益ヲ割出シマシタ

ソレカラ工業ノ收益ニ付キマシテハ、是ハ内容ガ色々アリマスノデ、大體二ツニ分ケマシテ、主要職工五人未満ノ工場ノ家内工業ト見テ、其ノ家内工業ノ收益ヲ推計スル爲ニ約六千程ノ世帯ニ付テ、ヤハリ調査票ヲ交付シテ必要ナ事項ヲ申告シテ貰ヒマス、ソレカラ五人以上ノ工場、是ハ多少大規模ノ工場ト見マシテ、ソレニ付キマシテハ全體ノ工場數ノ約百分ノ四ニ當ル——昭和十年ニ於キマシテハ三千二百十二程ノ工場ニ付テ、ヤハリ調査票ヲ配リマシテ相當詳細ナ申告ヲサセルノデアリマス、ソレニ基キマシテ其ノ工場ノ生産總價額、ソレカラ其ノ生産ニ要シタル原料、廣告、或ハ光熱、動力、工作

物、機械器具ノ減耗品等ヲ控除シタ純益ノ金額ヲ出シマシテ、ソレニ依ツテ全體ノ純收益ヲ、計算スル、土木建築トカ映畫製作トカ新聞、雜誌トカ云フモノハ普通ノ工場トハ又經營ノ態樣ガ違ツテ居リマスルノデ、特別ノ照會ヲ致シマシテ、ソレヲ基トシテ計算ヲ致シテ參リマス

第五番目ノ商業ノ收益ニ付キマシテハ、物品販賣業、是ハ卸賣モ小賣モ入ツテ居リマスガ、物品販賣業ト娛樂興業者、旅館等ノ接客業者、サウ云フモノニ付キマシテハ千分ノ三、或ハ百分ノ二、或ハ百分ノ四ト云フ風ナ割合デ世帯ヲ取りマシテ、ソレニ調査票ヲ渡シテ調査ヲ致シ、其ノ結果ヲ基準ト致スノデアリマス、其ノ他ニ媒介周旋業者、或ハ金融業者、保險業者、ソレカラ商業トハ違ヒマスルガ、地面ノ貸シテ利益ヲ取り、或ハ貸家ニ依ツテ利益ヲ得ル人、サウ云フモノニ付キマシテハ、此ノ一般ノ調査ノ方法ニ依リマセヌデ、特別ノ照會調査ヲ致シテ、極ク僅ナ事例ヲ基ニシテ全體ヲ計算致ス行キ方ヲ致シテ居リマス

交通業ノ方ニ於キマシテハ、鐵道、軌道及ビ船舶ト云フヤウナモノニ付キマシテハ、大體其ノ方面ノ統計資料ガ十分デアリマスルノデ、一々調査票ヲ渡シテ申告ヲ求メナイデ、純益金ノ總額ニ稅トカ借入金ノ利子トカ積立金、俸給、賃銀等ヲ加減致シマシテ其ノ收益ヲ出シタリ、或ハ鐵道、軌道ト云フヤウナモノニ付キマシテハ、營業益金總額ニ稅、俸給、賃銀總額等ヲ合算シテ算出スルトカ云フヤウナ特別ノ方法ヲ講ジテ居リマス

ソレカラ公務自由業ト申シマスノハ、官公吏或ハ辯護士、醫師ト云フモノデアリマ

スルガ、官公吏ニ付キマシテハ俸給、給料總額ヲ個人ニ就カナイデ、其ノ統計ニ基イテ計算ヲ致シマス、辯護士、醫師等ノ自由業ニ付キマシテハ若干ノ箇所ニ照會ヲシテ、ソレヲ標準ニシテ全體ヲ推計シテ行ク可ナリ粗イ推計ノ仕方ヲシテ居リマス、ソレカラ女中トカ下男トカ云フ家事使用人ノ收益ニ付キマシテハ、是ハ商工省ノ調査ニ依リマシテ、平均給料額ヲ推計シマシテ、其ノ推計シテ給料額ニ昭和十年ノ國勢調査ニ基キマスル家事使用人ノ總數ヲ乘ジテ出ス、斯ウ云フヤウナリ方ヲシテ居リマス

圓、昭和五年ノ國民所得ノ推計額ハ百六億三千六百萬圓、昭和十年ノ國民所得ノ推計額ガ百四十五億三千二百萬圓ニナル譯デアリマス、併シ先程申上ゲマシタヤウニ此ノ昭和十年ノ百四十五億三千二百萬圓ト申シマスルモノハ實際トノ開キカラ申シマス、是ハ餘程内輸目ニナツテ居ルモノト考ヘラレマス

コトハ不當ト云フコトガ分リマシタガ、昭和十年以後ノ毎年ノ推計ハ現在致シテ居リマセヌ、ドウシテモサウ云フ推計ヲ致シマス爲ニハ普通ノ數理統計、及ビ公式ニ依リマスル統計理論ノ外ニ、ヤハリ稅制ノ方式及ビ稅務關係ノ知識ト、ソレカラ熟練ト經驗ニ依ル所謂勘ト云フモノデ見込シテ、ソコニ多少ノ見込ヲ付ケナケレバ實際ノモノニ合ハナイト云フコトガ分リマシタノデ、統計局ト致シマシテハ昭和十年以後ノ毎年ノ推計ヲ止タテ居リマス、ソレカラ今一ツ國富ノ統計ニ付キマシテデゴザイマスルガ、是ハ大體國民所得ノ調査ニ併行致シマシテ、同時ニ農業者或ハ工業者、或ハ水産業者ノ各人ニ付テ調査票ヲ渡シテ申告サセル場合ニ、其ノ一箇年ノ經營ノ狀況ノ外ニ、其ノ世帯ニ於キマスル財產額ヲ見込デ記入サシテ、ソレヲ總計致シマシテ作ルノデアリマスガ、此ノ國富ノ統計ハ大體國際聯盟ガ出來マシタ際ニ、國際聯盟ノ負擔金ノ割合ヲ決メルトカ、或ハ國際聯盟ニ於キマシテ軍縮ノ議ガ出マシタ時ニ、各國ノ國富額ニ比例シテ軍縮ラシラドウカト云フヤウナ議論ガ出タ爲ニ、我國デ作リマシタノガ基デアリマスルガ、國民所得ヨリモ尙ホ一層國富ノ調査ハ、實際トノ開キガ多イヤウニ考ヘラレマス、大體國民所得、國富ノ御説明ハ以上デゴザイマス

ツタト云フヤウナコトデゴザイマスガ、面倒ダカラヤライデハ甚ダ困ルノデス、内閣統計局ト云フ立派ナ機關ガ國家ニアツテ、ソレガ十年マデヤツテ見タガ、餘リシツカリイカスカラ、面倒ダカラ止メテヤツタト云フコトニ聞エルデセウ、果シテ是ハドウ云フモノデセウカ、其ノ邊ノ所ヲ御説明願ヒタイ

キマシテハ、大藏省ノ調査ニ基イテヤリマシテ、是ハ個人調査ヲ致シテ居リマセヌ、ソレデ大體斯ウ云フヤウナ方法デ出シマスル關係上、全體トシテ見マスルト可ナリ洩レガアリマス、ソレカラ調査ノ中ニハ色々重複スル所モアリマスルガ、ソレ等ヲ押ナベテ考ヘテ、此ノ計算ニ基キマシテ出タ數字ガ、實際トドノ位ノ開キヲ持ツテ居ルカト云フコトニ付キマシテハ、大體實際ノ國民ノ所得ヨリモ少ナ目ニ出ルト云フコトハ言ヘルノデアリマス、併シ其ノ少イ割合ガドノ位デアルカト云フコトニ付キマシテハ、先程モ申上ゲマシタヤウニ、現在ノヤウナ統計ノ制度ガ統一シテ居リマセヌ關係上、據ルベキ尺度トシテ檢算スルベキ適當ナ資料ガ見付カリマセヌノデ、全ク是ハ其ノ考究スル人ノ見込ニ依ルノデアリマス、大體斯ウ云フヤウナ性質デ國民所得ノ調査ヲ致シテ居ルノデアリマスルガ、先程申上ゲマシタ大正十四年ト昭和五年、昭和十年ノ三回ノ計數ヲ申上ゲマス、大正十四年ノ國民所得ノ總額ガ百三十三億八千二百萬

從來統計局ニ於キマシテ大正十四年、昭和五年、此ノ二回ノ國民所得ノ調査ノ數字ヲ基ニ致シマシテ、其ノ間ノ大正十五年、即チ昭和元年、昭和二年、三年、四年ト云フ各年ノ推計ヲ出シテ居リマス、ソレカラ昭和五年以後モ六年、七年、八年ト云フ風ニ推計ヲ出シタコトガゴザイマスガ、併シ是ハ非常ニ假定ノ多イ方法デアリマシテ、大體此ノ課稅ノ所得額、課稅ニ際シテ査定サレタ所得額ノ増減ト國民所得トガ、略關聯シテ動クモノデアルト云フ學說ヲ基ニ致シマシテ計算シタノデアリマス、併シナガラ昭和十年ノ國民所得ノ調査ニ依リマシテ、今マデノ推計ノ狀況ヲ考ヘテ見マスルト、毎年ノ推計ヲ致シマスルノニ付キマシテ、統計理論上ハ出來ルダケノ處置ヲシテ計算致シマシタル數字ガ實ハ大分違ツテ參ル、ソレハヤハリドチラカト云フト内輸目ニ出テ來ルノデアリマス、隨テ昭和五年ノ國民所得ノ調査ヲ本トシマシテ、昭和十年ノ年次ニ依ツテ推定致シマシタル數字ト、昭和十年ニ實際ニ國民所得ノ調査ヲ致シマシタル數字トノ間ニデモ、約十億以上ノ開キガ出テ參リマシテ、實際ノ調査ヨリモ十億以上低イ目ニ出テ來ル結果ガ分リマシタ、普通ノ統計理論ダケヲ以テシテハ、到底毎年々々ノ推計ト云フ

同時ニ農業者或ハ工業者、或ハ水産業者ノ各人ニ付テ調査票ヲ渡シテ申告サセル場合ニ、其ノ一箇年ノ經營ノ狀況ノ外ニ、其ノ世帯ニ於キマスル財產額ヲ見込デ記入サシテ、ソレヲ總計致シマシテ作ルノデアリマスガ、此ノ國富ノ統計ハ大體國際聯盟ガ出來マシタ際ニ、國際聯盟ノ負擔金ノ割合ヲ決メルトカ、或ハ國際聯盟ニ於キマシテ軍縮ノ議ガ出マシタ時ニ、各國ノ國富額ニ比例シテ軍縮ラシラドウカト云フヤウナ議論ガ出タ爲ニ、我國デ作リマシタノガ基デアリマスルガ、國民所得ヨリモ尙ホ一層國富ノ調査ハ、實際トノ開キガ多イヤウニ考ヘラレマス、大體國民所得、國富ノ御説明ハ以上デゴザイマス

○川島政府委員 只今ノ御尋デゴザイマスガ、昭和十年ノ國民所得ノ調査ハ出來上リマスノガ昭和十二年デゴザイマス、ソレハ先程モ申上ゲマシタヤウニ、實地ノ調査ハ昭和十年ニ致シマシテ、ソレニ基キマシテ大體一世帯ノ所得ノ平均ヲ求メマスル其ノ計算ハ十年ニ致スノデアリマスガ、其ノ基準ノ收益——國民ノ生産額ノ總額ト云フモノハ、農業、工業、商業、ソレノニ依リマシテ、各關係省ガ作製致シマス、ソレガ出來上リマスノガドウシテモ一兩年後ニナリマスノデ、其ノ結果國民所得トシテ推計ガ出來上リマスノガ、昭和十二年デゴザイマス、此ノ十年ノ國民所得調査ハ、昭和十二年ノ秋ニ出來上リマシタ、丁度其ノ時支那事變ガ起リマシテ、事變ノ初期ノ頃デアリマシテ、當時諸外國ノ我國ニ對スル色々ナ國情ノ偵察ノ惧モアリマスシ、又先程モ申上ゲマシタヤウニ、此ノ百四十五億ト申シマスル數字ハ、實際ノ國民所得ヨリモ餘程低イ目ニ出テ居リマスノデ、ソレヲ其ノ儘國民所得ナリト云フ風ニ一般ニ感ゼラレマス、戰爭勃發當初ニ於キマシテ、多少人心ニ面白カラヌ影響ヲ與ヘハシナイカト云フ所デ、當分ノ之ヲ祕密ニ致シテ居ツタ次第デアリマス

○堀切委員長 十二年ニ出來タト言ハレル

○堀切委員長 十二年ニ出來タト言ハレル

○堀切委員長 十二年ニ出來タト言ハレル

○堀切委員長 十二年ニ出來タト言ハレル

○堀切委員長 十二年ニ出來タト言ハレル

○堀切委員長 十二年ニ出來タト言ハレル

○堀切委員長 十二年ニ出來タト言ハレル

○堀切委員長 十二年ニ出來タト言ハレル

ガ、吾々ガ頂戴シタノハ五年カラ十年ノ間ハチツトモ載ツテ居ナイ、一番新シイノニハ五年シカ載ツテ居ナイ

○川島政府委員 ソレハ先程モ申上ゲマシタヤウニ、昭和五年以後ノ各年ノ推計ト申シマスノハ、是ハ統計局ト致シマシテ練上ガタモノデアリマセヌノデ、統計局ノ職員ガ研究ノ爲ニ計算ヲ致シマシタノデアリマス、特別ノ發表方法ヲ執リマセヌデ、統計局ノ統計時報ト申シマス機關雜誌ノ研究雜誌ガゴザイマス、ソレニ載セタダケデゴザイマス

○堀切委員長 ソレヲ代議士ニ御配付ニナツタラドウデスカ、毎年サウ云フモノガ出テ居ルナラバ、議會ハ毎年開ケルノダカラ、國民ノ代表タル代議士ニ御配付ニナルベキモノト思ヒマスガ……

○川島政府委員 ソレハ實ハソコマデ考ヘテ居リマセヌデシタガ、大體其ノ雜誌ニ出シマシタ趣旨ハ、一種ノ研究發表ト云フヤウナコトデゴザイマシテ、大體ノ過程ヲ、國民ノ所得額ト、ソレカラ課税ノ所得額トノ相關關係カラ見テ計算スレバ斯ウナル、併シソレニ付キマシテハ其ノ當時マダ十分ナ確信ガアリマセヌノデ、統計局ト致シマシテ正式ニ發表スルマデニ至ラナカツタノデアリマス

○堀切委員長 ソレハ其ノ邊デ宜シイト致シマシテ、十年ノモノハ宜シイガ、昭和十年後ノ最近ノモノハドノ位ノ計算デゴザイマス

○川島政府委員 是ハ現在致シテ居リマセヌ○堀切委員長 十二年ノマデシカヤツテ居ナイノデスカ

○川島政府委員 昭和九年マデ研究的ニ致

シタモノガゴザイマス

○堀切委員長 其ノ後ハズツト分リマセヌカ

○川島政府委員 其ノ後ハ致シテ居リマセヌ、其ノ譯ハ昭和十年ノ國民所得ノ調査ニ依リマシテ、先程申上ゲマシタ百四十五億三千二百萬圓ノ數字ガ上ツテ來タ、若モ其ノ前ニヤツテ居リマシタ昭和五年カラ六年、七年、八年、九年ト各年ノ推計ノ方法ガ非常ニ適當デアルナラバ、其ノ年々ノ推計カラ來ル十年ノ數字ト、調査カラ來マシタ昭和十年ノ數字トガ、略、一致ヲシナケレバナラヌ譯デアリマス、所ガ昭和五年ノ國民所得カラ推計ヲシテ來マシタ方法デヤツテ行キマス、約十億少ク出テ來ル、詰リソレハ昭和五年カラ年々推計ヲシテ行キマスル方法ガ、唯統計ノ理論ダケデハ實際ニ適合シナイト云フコトガソレデ分ツタノデス

○堀切委員長 ソレダカラ止メテシマツタト云フノデハ甚ダ満足出來ヌノデス、遺漏ガアルナラバソレヲ補ツテ、正シキモノヲ拵ヘテ行クト云フコトガ任務デハナイカト思フノデスカ、マアソレヨリ外ニナイト云フコトナラバ仕方アリマセヌ

○立川委員 先般大藏省ガ吾々ニ御示シナツタ數字ハ、昭和十四年度ハ二百五十五億ト推算サレタノデアリマスガ、統計局ハ其ノ數字ハ略、御認メニナツテ居ル譯デスカ

○川島政府委員 昭和十年ノ推計ニ付キマシテハ、只今申上ゲマシタヤウニ普通ノ統計理論ノ公式ダケデハ不十分デアリマスノデ、ソコニ見込ヲシナケレバナリマセヌ、其ノ見込ニ付テハ現在定説トサレルヤウナ理論ガアリマセヌノデ、ドウシテモ各人ノ

經驗カラ割出シテ來ル勘デ見當ヲ付ケナケレバナラヌト思ヒマス、若シサウ云フ點ヲ統計局ノ方ニモ御許シガ願ヘマスナラバ、此ノ二百五十五億ト云フ數字ハ、私ハ内輪ニ見タ數字トシテ認メラレルト思ヒマス、事實ハ私ノ方ノ見當カラ見マスルト、多少ソレヨリハ多イノデハナイカト云フ風ニ考ヘラレルデアリマス

○立川委員 大正十四年ノ總額ガ百三十三億、昭和十年ガ百四十五億ト云フ増加率カラ——是ハ其ノ通りノ率ニハ行キマスマイケレドモ、ソレカラ考ヘマシテ昭和十年カラ四年間ニ、百億以上ノ増加ハ非常ニ多過ギハセヌカ、只今統計局長官ハ内輪ト申サレタガ、然ラバ昭和十年トカ五年トカ

ノ——尤モ五年ハ非常ニ少クナツテ居リマスガ、昭和十年アタリノ推定ハ十億位ノコトニナツテ、非常ニ少イモノト見ラレハシナイカト思フノデアリマス、更ニ大藏省ハ此ノ二百五十五億ト云フ推算ヲ出サレマシタ其ノ基礎ハ、統計局ニヤウナ計算ノ方法トハ全然違フノデアリマセウガ、若シ違フトスレバ、ドウ云フ計算カラ出サレタノデアリマスガ、此ノ際統計局長ヨリ先ヅ此ノ殖ヘ方ノ非常ニ多イト云フ點ノ御説明ヲ願ヒタイ

○川島政府委員 此ノ國民所得ノ數字ヲ見マスル上ニ於キマシテ、大體時ヲ前後ニシテ見マスル場合ニハ、此ノ金額ハ金錢ノ價值デゴザイマスノデ、ソコニ實際ノ物資ノ量ト、ソレノ金額ニ現ハシタ場合トニ付キマシテ、各自其ノ年々ニ依ツテ、相當ノ開キガアルト云フコトヲ考ヘナケレバナリマセヌ、ソカラ此ノ國民所得ノヤウナ經濟統計ヲ見マスル場合ニハ、人口統計ト違ヒマシ

テ、大體ハ「グラフ」ニ書キマシタ線ガ決シタナガラカニ推移シナイノデアリマス、非常ニ高クナツタリ低クナツタリ、其ノ波ト谷トノ間ガ急激ニ變化スル傾向ガアリマス、一見致シマスルト昭和五年ヨリ昭和十年ハ約五割増加致シテ居リマスガ、ソレデ同ク十年ト十五年ト又其ノ五割ト云フ風ニ見ル譯ニハイカナイト存ジマス、是ハ其ノ經濟界ノ急激ニ變化スル山ノ所ト、或ハ中腹ノ所ニ掛ツタ場合等ニ於キマシテ餘程違ヒマスノデ、百四十五億ト二百五十五億ト云フヤウナ相違ハ、特ニ疑問ヲ挟ム程ノコトハナイヤウニ考ヘマス

○大矢政府委員 此ノ前ノ國民所得ノ點ニ付テ御尋ガアツタ場合ニ、御答シテ置キマシタ通り、内閣統計局カラ大正十四年ト昭和五年ノ兩度ノ國民所得ガ發表サレテ居リマスガ、其ノ他ノ數字ハ發表セラレテ居ナイ、ソレデ大正十四年ト昭和五年トノ間ニ挾マツタ各年ノ國民所得ノ推移ハドウシテ見ルカト云フニ、大體第三種所得稅ノ課稅對象トナル所得金額ノ推移ヲ見テ、推定スル方法ガ宜カラウト思フ、又内閣統計局デモ同様ノ方法ヲ採ツテ居ルヤウニ、私共考ヘテ居リマスト云フコトヲ申上ゲテ置キマシタガ、只今統計局長ノ御説明ニ依ツテ、ソレハ公式ノモノデナクテ、統計局ノ職員ガ研究的ニナサレタモノデアルト云フコトヲ、今承知シタ譯デアリマスカラ、多少其ノ前ニ申上ゲタ點ヲ訂正致シテ置キマス、ソレデ私共毎年稅務統計ヲ作ル場合ニ於テモ、大體其ノ年ノ國民所得ト云フモノハ、ドウ云フ風ニナルモノカト云フコトハ見テ居リマス、ソレカラ稅制改正、或ハ増稅等ヲ致ス場合ニ於キマシテモ、稅務ノ立場カラ致

シマシテ、一應ノ推計ヲ致シテ居リマス、ソレデ稅務ノ立場カラ推計スル方法トシテハ、ヤハリ第三種所得ノ課稅對象ナル所得ノ毎年ノ變遷ノ狀況ニ依ツテ、各年ノ國民所得ノ狀況ヲ推計シテ行ク方が、一番妥當デハナカラウカ、ソレ以上推計シ得ベキ方法ガナイカラ、先ヅ之ニ依ツテ行クノダト云フコトヲ、私此ノ前申上ゲテ置イタルデアリマスガ、其ノ方法ニ依ツテ計算シテ見マスルト、昭和五年ノ内閣統計局ノ發表セラレテ居リマス國民所得ニ對シマシテ、

最近ノ國民所得ヲ推計致シマスルト、大體二百五十五億程度ニナル、斯ウ云フコトヲ此ノ前申上ゲテ置イタル次第デアリマス、ソレカラ昭和十年ニハ内閣統計局ノ國民所得ノ調査ガ百四十五億、然ルニ最近ハ二百五十五億ト云フコトハ、殆ド倍ニモ近イウニナツテ居ルガ、ソレガ多過ルデハナイカト云フヤウナ御話デゴザイマスガ、其ノ第三種所得ノ課稅對象トナツテ居ル所得金額ハ、御手許ニ參考資料トシテ配付シテ居リマスル第三種所得稅額表ト云フ中ニ、大體ノ見當ノ付ク數字ガゴザイマス、昭和十一年ニハ二十五億、昭和十二年ニハ二十九億、昭和十三年ハ三十八億、昭和十四年ハ四十五、昭和十五年ハ出テ居リマセヌガ昭和十一年ハ二十五億、昭和十四年ハ四十五億ニナツテ居リマス、尤モ此ノ間ニ於テハ免稅點ノ引下トカ、或ハ配當所得ヲ四割控除シテ居タルヲ二割控除ニスルト云フヤウナ、所得金額算出ノ方法トカ、限界ト云フ點ニ於テ異動ガアリマスカラシテ、是ハ補整シナケレバナリマセヌガ、サウ全體ニ著シイ影響ハ及ボサナイカト存ジマス、隨ヒマシテ大體第三種所得ノ變遷ノ狀況ト、ソレカラ

昭和十年ノ國民所得百四十五億ニ對シテ、最近ノハ二百五十五億ニ推定セラルト云フノハ、一致シテ居ルノデハナイカ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス

○立川委員 先程私ノ間違ヒカトモ思フノデスガ、大正十四年度總額ハ百三十三億トナツテ居ルヤウデアリマスガ、サウシマス大正十四年ガ百三十三億デ、昭和四年ハ百六億ニナツテ、昭和十年ニ百四十五億ニナツタト云フノハ、何カ特別ナ理由ガアルノデアリマスカ

○川島政府委員 是ハ一概ニ申上ゲ兼ネマスガ、大體カラ申シマシテ景氣ニ左右サレタモノト思ヒマス、昭和五年ハ最近ニ於キマシテ一番景氣ノ惡イ時デ、國勢調査ノ色々ナ職業ノ分野ヲ見マシテモ、産業ノ分野ヲ見マシテモ、其ノ他ノ經濟統計ヲ見マシテモ、非常ニ此ノ時ハ不景氣ニ襲ハレテ居ツタ時デアリマス、低クナルノハ當然デアリマス

○立川委員 ソレナラバ大正十四年ノ百三十三億ト昭和十年ノ百四十五億ハ稍々常態デアル、昭和五年ガ特ニ景氣ガ惡カツタト云フヤウナ結論ニナルノデアリマスガ、サウスルト常態ヲ較ベテ大正十四年ノ百三十三億ト、昭和十年ノ百四十五億デハ、十年以上デ僅カニ十億位シカ殖エテ居ラナイ、然ルニ其ノ後四年デ略々倍ニ近イ殖エ方ト云フコトハ、愈々ソコニ誤差ガアルノデハナイカト云フ疑ヲ持タレルノデスガ、ドウ云フ譯デアリマスカ

○川島政府委員 大正十四年ト較ベマスルト、既二十年ヲ經テ居リマス、殊ニ經濟界ノ方面ニ於キマシテハ、滿洲事變前ト滿洲事變後ノ景氣ハ、餘程違フ所ガアリマスノ

デ、仰セノヤウニ昭和十年ガ大正十四年ト略々同ジト見ル方モゴザイマスガ、併シ寧ロ此ノ昭和十年ノ百四十五億ト云フ數字ガ、實際ヨリハ低目ニ出テ、詰リ所得ノズツト上リ掛ケノ麓ノ所ヲ抑ヘタモノト見タ方ガ宜イカト存ズルノデアリマス、ココニナリマスト殆ド見當ノ問題ニナリマスケレドモ、先程申シマシタ國民所得調査ノ統計ノ方法カラ考ヘマス、此ノ百四十五億ト云フモノハ、餘程低イ目ニ出テ來テ居ル、サウ云フ低イ目ニ出テ來ル開キハ、昭和五年、或ハ大正十四年ノヤウナ不景氣ノ時デアルトカ、或ハサウデナクテモ多少保存ノ時デアリマスノト、上リカケノ變動期ニ入ルヤウナ時期トデハ、開キガ多ク出テ來ルノデハナイカト思ハレマス

○板谷委員 ドウモ只今ノ統計局長官ノ御説明ハ不徹底デ、能ク要領ヲ得マセヌガ、大體統計局ガ國民所得ノ調査ノ本元デナケレバナラス、然ルニ今回ノ稅制改正ハ、御承知ノ通り恒久的ノ財源トシテ改正ヲシヨウト云フノデアリマスルカラ、國民ニ果シテ擔稅力アリヤ否ヤ、是ガ重大ナ關係ノアルコトデアリマス、所デ先般大藏大臣ノ御説明ニ依リマス、昭和十四年ガ二百億カラ二百五十億アルヤウナ御話ニ承ツタ、又主稅局長ハ二百五十億アルト云フ、只今立川君ノ質問ニ對シテ、アナタハソレヲ肯定スルヤウナ風ノ御話ガアツタケレドモ、一體何ヲ根據ニシテソレヲ肯定ナサルカ、昭和五年以來何等調査ナクシテ、サウ云フ御答辯ガ出來ルモノデアリマスガ、現在ノ時局デアルカラ、國民ハ勿論或ル程度マデ納稅ニ應ジナケレバナラスコトハ、勿論望ムコトデアル、併シナガラ生産力ノ擴充、

或ハ低物價政策、是ハ政府ガドウシテモ實行シナケレバナラスコト云フコトヲ言明シテ居ル、ソレデアルカラ恒久的ノ財源トシテ、今回ノ稅制改正ガ適當デアルカドウカト云フコトヲ、今檢討シナケレバナラス委員會デアル、ソレニ國民所得ニ對スル確信ガナクシテ、ドウシテ御説明ガ出來マスカ、モウ少シ此ノ點ハハツキリ御答辯ヲ願ヒタイ

○大矢政府委員 是ハ此ノ前ニモ申上ゲテ置キマシタガ、國民所得ニ對スル課稅ノ割合ハ、國民ノ負擔力ヲ測定スル場合ニ、一ツノ有力ナ資料ニハ違ヒガナイ、併シナガラ國民所得ノ計算ト云フモノハ非常ニ困難デ、各國ニ於テモ其ノ計算方法ガソレノ違ツテ居ルノデアリマスガ、ソレヲ間違ヒナイモノトシテ、亞米利加ハ、國民所得ニ對シテ百分ノ二十、佛蘭西ハ百分ノ二十八、然ルニ日本ハ百分ノ十五デカラ、亞米利加ニ對シテモ百分ノ五デケ餘計課シテ宜イノダ、佛蘭西ニ對シテハモウ百分ノ十三餘計課シテ宜イノダ、斯ウ云フヤウナコトハ一概ニ申サレナイ、ソレハ各國ノ國民所得ノ調査ノ方法ソレ自體ニ於テ違ヒガアリ、又實際調査ニ當ツテ精粗ノ違ヒモ出テ來ル、又假ニソレガ同ジ割合ト致シマシテモ、産業界ガ上向ノ場合ト下向ノ場合ニ依ツテ、自ラソレガ違ツテ來ル、或ハ又國民ノ間ノ富ノ分配ノ程度ガドウ云フ風ニナツテ居ルカ、産業ノ發達ノ程度ガドウ云フ風ニナツテ居ルカ、直接稅、間接稅ノ方面ノどちらニ多ク稅收入ガ依存シナケレバナラナイカ、色々ナ點ガアルノデアルカラ、ソレ等モ十分考究シナケレバナラス、要スルニ國民所得ニ對スル稅ノ負擔ノ割合ハ、一應ノ參考ニハナリマスケレ

ドモ、餘リニ之ニ重キヲ置クト、又ソコニ誤リガ起ルモノデアル、隨テ稅制改正等ニ當ツテ、ドノ程度ノ增稅ヲシナケレバナラスカト云フ場合ニハ、其ノ時ノ財政ノ狀況、國民經濟ノ狀況、產業界ノ狀況、國民生活ニ及ボス影響、ソレ等々ノ方面カラ檢討シテ、先ヅ最モ適當ダト思ハレル所ニ落着カセナケレバナラス、國民所得ニ對スル租稅負擔ノ割合モ、一應參考ニハナリマスケレドモ、餘リニ之ニ重キヲ置ク譯ニ行カナイデアラウ、斯ウ云フコトヲ前ニ申上ゲタ次第アリマス

○板谷委員 只今主稅局長ノ御答辯ニ對シテ私ハ承服致シマセヌガ、私ノ順番ガ來タ時分ニ質問スルコトニ致シマシテ、統計局長官ニ御伺シタイノデアリマス、世帯ノ一部ニ付テ調査スルコト云フコトデアリマスガ、是ハ全國府縣別ニデモヤツテ行カウト仰シヤルノデアリマスカ、或ハ又國民所得ハ法人ト個人ヲドウ云フヤウナ御取扱ニナツテ居リマスカ、其ノ點ヲ御伺致シタイト思ヒマス

○川島政府委員 只今ノ御尋デゴザイマスガ、法人ニ付キマシテハ個人ト分ケマシテ別ニ法人ノ方ノ調査ヲ致シテ居リマス、併シ其ノ調査ニ付キマシテ抽出スル割合ニ付キマシテハ、法人ニハ色々規模ノ大小ガアリマスノデ、別ニ機械的ノ方針ニ依ラズニ、適當ト思ハレル、會社ニ照會ヲ致シテソレヲ本ニ致シマス、ソレカラ個人ノ所得ニ付キマシテハ大體全國ヲ十一ノ統計區ニ分ケマシテ、其ノ統計區ノ各ノ地勢ニ依ツテ大體二區位ツツニ分ケテ、其ノ府縣ヲ一固マリニ致シマシテ、ソレヲ人口、ソレカラ米ノ產額ノ順位ニ一應並ベマス、ソレ

カラ別ニ又同ジ府縣ノ組ミ合ハサツタモノヲ其ノ府縣ノ工業ノ大小、及ビ商業、水產業ノ大小ノ平均ノ順位ニ並ベマシテ、ソレヲ平均シテ順位ヲ作ツテ各府縣ヲ並ベマシタ上ニ、大體三ツノ府縣カラ二ツツ取ルト云フヤウナ極メテ機械的ノ方法ヲ執ツテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ國民所得ノ調査ニナリマス、ドウニモソレヨリ外ニ良イ方法ガアリマセヌノデ、已ムヲ得ズサウ云フ方法ヲ執ツテ居ル次第デアリマス、デアリマスカラ全國ニ互ツテ調べテハ居リマスケレドモ、其ノ全國ニ互ツタモノノ平均ガ、果シテ全體ノ平均ニナルカドウカト云フコトニ付テハ、是ハ餘程開キガアルモノト見ラレルノデアリマス、現在ノ調査ノ方法トシテ、斯ウ云フ大キナ數字ヲ一纏メニシヨウトスル際ニハ、其ノ外ニ方法ガドウニモ見付カリマセヌノデ、サウ云フ方法ヲ以テヤツタ譯デアリマス

○板谷委員 モウ一點……此ノ國民ノ所得ト云フコトハ、先刻御話ノ純益デスカ、總所得デスカ

○川島政府委員 純益デスカ

○板谷委員 ソレカラ今法人ト個人トノ御説明ハ一寸聽取り兼ねタノデアリマスガ、是ハ御調査ノ仕方ニ依ツテ二重ニナリマセウ、國民所得デアルカラ、國民全體ニ對スル所得、ソコデ今押シナベテ法人ト個人ト重複スルヤウナコトニナツテ居リマセヌカ、ソレダケ一寸御尋致シマス

○川島政府委員 御尋ノ通り重複シタ部分ガ相當ニアルト思ヒマス、是ハモウ已ムヲ得ヌコトニシテ、總テヲ押シナベテシマツテ居ル譯デアリマス、デスカラ、此ノ數字ト云フモノハ、サウ云フ積リデ御覽ヲ願ヒ

タイト思ヒマス

○森田委員 今ノ御説明ト委員諸君カラノ御尋トノ間デ、統計局長モ大體サウ正確ナモノデナイト仰シヤツタノデスカラ、サウ追究セヌデ宜イノデスカ、統計ト云フモノハ御承知ノ通り地方デモ毎年同ジコトデハイカスト云フノデ、零ヲ一ツツ附ケテ行ツタ例シガアル、同ジヤウナ數字ヲ出シテハイケナイト云フノデ尻ニ零ヲ附ケテ行キマシタラ、其ノ地方ノ算出ガ多クナツタ、國全體ヨリモ多クナツタ例ガアル、今ノモ私ハ斯ウ思フノデスカ、國民所得ガ二百五十億、而モ今統計局長ガ言ハレタヤウニ純益ノ所得デアル、純益ノ所得ガ二百五十億國民所得ニアルナラバ、所得稅ハ本年ハ法人ト個人ト合セテ十五億、私ハ二百五十億ノ純益ガアルナラバ、日本ノ國富ト云フモノハ非常ナ驚異デ進デ行カナケレバナラスト思フガ、總收入デヤナイ、總所得ト云フ名前ガ悪い、國民總收入ガサウアルノデハナイ、若シ純益ガ二百五十億アルナラバ、私ハソレハドンナ計數ヲ御立デニナツテモ現ハレヤウ筈ハナイト思フ、ソレカラ法人ト個人ト建前ハドウ行クカト云フト、國民ノ所得ヲ決定スル際ニ法人ノ所得ガ分ラヌト仰シヤツタガ、法人ノ所得ハ幾ラ小サイ會社デモ、稅務署ニ決算報告ヲ出シマスカラ分リマス、個人ノトハ違ツテ、法人ノハ明確ニ、純益ハ計上出來ル、其ノ明確ニ計上ノ出來タ純益ノ中カラ、國民ニ配分シタ残りノ留保所得ト、純國民所得ト合ハシタモノガ國民ノ本當ノ純益デスカ、ソレガ本當ノ國ノ富ヲ増シ、產業ノ力ヲ試シテ見ル標準ニナルノデアルカラ、今ノアナタノ説明ノヤウナ方法ヲ以テ國民ノ總所得ヲ決定シテ行キ居

ルト、又ソレニ依ツテ擔稅力ヲ決定シヨウト云フヤウナコトヲアルト、ソレハ大變ナ間違ヒデスカ、國民所得ナドヲ決定スルコトハ非常ニ大切ナコトデアアル、他ノ個人ノ所得ノ決定ハ中々困難デアアルコトハ、私モ了解シマスガ、法人ダケハ明瞭ニ分ツテ居ル、其ノ法人ノ總所得ノ中カラ個人ニ分配シタ残りヲ國民所得ノ全體ト見レバ宜イ、配當シタモノト他ノ個人純益トヲ合セタモノガ、國民ノ本當ノ總所得ニナル、ソレガ二百五十億アル筈ハアリマセヌ、若シアルナラバドウ云フ計算ニナルカラ御示シニナラストイカヌガ、唯是ハ例ヲ出シテ凡ソ斯ウ云フ風ノ見當デアアル、全體ノ國民ノ總收入デアルトカ云フ風ニ仰シヤルナラバ、一應ソレデ了解シテモ宜シイガ、純益トシテナラ私ハ諒解出來スト云フコトヲ申上ゲテ置キマス

○武田委員 私モ統計局長官一寸伺ヒタイノデスカ、統計局長官ノ御意見デハ、昭和十四年ニ二百五十億ハ寧ろ内輪ダト云フ御見解デアリマシタガ、私モサウデナイカト實ハ思フノデスカ、學者ニ依ツテハ三百億位ノ國民ノ所得ガアルト云フ說ヲナス者モアリマス、是ハ色々ムツカシイ理窟ガアリマセウガ、私モ實ハ二百五十億ト云フノハ内輪デナイカト考ヘテ居ルノデスカ、併シサウ云フコトヨリハ、斯ウ云フコトハ分ラナイモノデセウカ、名古屋ノ高商ノ統計研究室デ研究サレタ報告書ヲ見マス、日清戰爭ノ時、明治二十七年カラ二十箇年ノ間ノ生産ヲ本トシテ其ノ増加率ヲ調べテアルノデアリマスガ、ソレハ私ハ今此處ニ文獻ハ持ツテ居ラヌノデ、記憶デスカラ間違ツテ居ルカモ知レヌガ、二十年間ノ毎年ノ増加率ハ慥力百分ノ六ト云フ數字ガ出テ居

ルト云フコトデアリマス、是ハ其ノ増加率ヲ以テ確定的ノモノトシテ、其ノ計數ヲ見ルコトハ出來ナイデアリマセウ、年々ニ依ツテ、殊ニ自由經濟主義ノ時ニハ、ソコニ景氣循環ノアルコトハ當然デアリマスカラ、

サウ云フコトヲ見ルコトガ良イカ惡イカ分リマセスガ、併シ先程統計局長ノ御話ノヤウニ、正確ナ國民所得ノ調査ハ昭和五年デアツタ、是ハ先ヅ一通リ基本トシテ看做スコトガ出來ルカト思フデアリマスガ、各種ノ統計學者ノ意見ヲ見マスノニ、皆昭和五年ノ統計局ノ御調べヲ基礎トシテ論議ヲシテ居ルヤウデアリマス、一先ヅ是ガ間違ナイモノト假定致シマスレバ、昭和五年ハ我國ノ「デフレーション」政策ノ極端ニ行ハレタ年デアリマシテ、最モ不景氣ノ絶頂ノ年デアリマスカラ、ソレカラ最近マデハ殆

ド引伸スヤウニ、我國ノ生産モ盛シニナリ、隨テ國民所得モ増加シテ居ルデアリマス、デアリマスカラ昭和五年カラ最近マデノ國民ノ生産高ト云フモノハ、總テ各省ニ於テ、工業ニ付テハ商工省、農産物ニ付テハ農林省ト云フ工合ニ御調べガ大體アルデアリマスカラ、其ノ生産額ノ増加ノ趨勢ニ物價ノ上ツタ趨勢ト云フモノヲ見タナラバ、國民所得ノ増加率ト云フモノモ、ソコ大體ノ計數ガ出ルヤウニ私ハ思フデアリマス、其ノ大藏省デ御調べニナツタ第三種ノ國民所得ノ増加率ト云フモノハ、稍、ソレニ類シタモノデアリマスカレドモ、之ヲ更ニ日本ノ各産業ノ生産高ガ略、調べテアルデアリマスカラ、其ノ生産ノ増加率ニ物價ノ増加率ノ計數ヲ調べタナラバ、大體ニ於テドノ位ノ國民所得ガ増加シテ居ルト云フコトハ、略、確實ニ近イモノガ出サウニ思

フノデスガ如何デスカ、サウ云フモノハ出來テ居リマセヌデスカ、ソレヲ一ツ統計局長ノ方デ御調べノ結果分リマシタラ、御報告ヲ願ヒタイデス

○川島政府委員 御説ノ通り各産業ノ生産額ノ増加ノ趨勢ガ分リマスカラ、ソレニ基キマシテ昭和五年ノ國民所得カラ現在ガ、凡ソドノ位デアアルカト云フ大體ノ見當ハ付キ得ルト思ヒマス、唯併シ其ノ各産業部門ノ生産統計ノ趨勢ト云フモノヲ、一ツノ指數ニシテ出シマス場合ガ非常ニ困難デアリマシテ、見ル人ニ依リマシテ、ドノ數字ト

ドノ數字ヲ採ツテ行ツタ宜イカト云フヤウナコトニ付テ、相當ニ研究ノ餘地ガアラウト存ジマス、統計局ニ於キマシテハ、マダ其處マデ手ヲ伸バス餘地ガアリマセヌノデ、現在ノ所デハヤツテ居リマセヌ、將來ニ於キマシテハサウ云フ綜合的ナ研究ヲ致シマシテ、大體ノ趨勢ヲ見テ、ソレニ基イテ國民所得額ノ推測ト云フコトモ致シタイトハ存ジテ居リマスガ、現在ノ所デハマダソレニ手ガ著イテ居リマセヌ

○川島政府委員 先程カラ段々ノ御尋ガアリマシタノデ、ソレニ付キマシテ一言申上ガデ置キタイト思ヒマス、此ノ國民所得ノ調査ト云フノハ、最初起リマシタ趣旨ガ、非常ニ正確ナモノヲ作ルト云フ目的ヨリモ、大體ノ國民ノ所得ハドウデアアルカト云フ所ヲ狙ヒマシタ爲ニ、現在ノヤウナ正確性ガナイ、其ノ點ハ私共ノ所デモ、是ハ決シテ正確ダカラ此ノ通りデアルト云フコトデ出シタノデハナイノデ、斯ウ云フ方法デ計算シタ場合ニ此ノ數ガ出ルノデスカラ、其ノ發表ヲスル際ニハ計算ノ方法ヲ附加ヘテ發表シテ居リマス

○堀切委員長 西川君、總理及ビ商工大臣ハ差支ヘテ來レナイサウデアリマスガ、大藏大臣ガ居リマスカラ、大藏大臣ノ方ニ御質問ヲ願ヒタイト思ヒマス

○西川委員 私ハ第一ニ我國ノ財政ノ全般ノ見透シニ付テ、御尋致シタイノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ曩ニ中村委員ヨリモ御質問ガアリマシテ、又本會議及ビ豫算總會等ニ於テモ、色々御質問應答ガアツタコト存ジマス、私出來得ル範圍ニ於テソレ等ノ點モ参照ハ致シマシタガ、尙ホ本案

○川島政府委員 農家ハ農産物ノ總額カラ農産物ヲ作ル爲ニ製シタ費用ヲ引イタ殘リヲ純收益ト見テ居リマス

○堀切委員長 如何デセウ、尙ホ色々希望ニ滿タヌ點ガアルガ、此ノ後十分ニ必要ナ研究ヲシテ發表シテ戴クト云フコトニ致シマシテ、此ノ點ハ此ノ程度デ措クコトニシテ、是ガ爲ニ國民ハ費用ヲ惜シマススト云フコトデ……

○川島政府委員 先程カラ段々ノ御尋ガアリマシタノデ、ソレニ付キマシテ一言申上ガデ置キタイト思ヒマス、此ノ國民所得ノ調査ト云フノハ、最初起リマシタ趣旨ガ、非常ニ正確ナモノヲ作ルト云フ目的ヨリモ、大體ノ國民ノ所得ハドウデアアルカト云フ所ヲ狙ヒマシタ爲ニ、現在ノヤウナ正確性ガナイ、其ノ點ハ私共ノ所デモ、是ハ決シテ正確ダカラ此ノ通りデアルト云フコトデ出シタノデハナイノデ、斯ウ云フ方法デ計算シタ場合ニ此ノ數ガ出ルノデスカラ、其ノ發表ヲスル際ニハ計算ノ方法ヲ附加ヘテ發表シテ居リマス

○堀切委員長 西川君、總理及ビ商工大臣ハ差支ヘテ來レナイサウデアリマスガ、大藏大臣ガ居リマスカラ、大藏大臣ノ方ニ御質問ヲ願ヒタイト思ヒマス

○西川委員 私ハ第一ニ我國ノ財政ノ全般ノ見透シニ付テ、御尋致シタイノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ曩ニ中村委員ヨリモ御質問ガアリマシテ、又本會議及ビ豫算總會等ニ於テモ、色々御質問應答ガアツタコト存ジマス、私出來得ル範圍ニ於テソレ等ノ點モ参照ハ致シマシタガ、尙ホ本案

○川島政府委員 農家ハ農産物ノ總額カラ農産物ヲ作ル爲ニ製シタ費用ヲ引イタ殘リヲ純收益ト見テ居リマス

○堀切委員長 如何デセウ、尙ホ色々希望ニ滿タヌ點ガアルガ、此ノ後十分ニ必要ナ研究ヲシテ發表シテ戴クト云フコトニ致シマシテ、此ノ點ハ此ノ程度デ措クコトニシテ、是ガ爲ニ國民ハ費用ヲ惜シマススト云フコトデ……

○川島政府委員 先程カラ段々ノ御尋ガアリマシタノデ、ソレニ付キマシテ一言申上ガデ置キタイト思ヒマス、此ノ國民所得ノ調査ト云フノハ、最初起リマシタ趣旨ガ、非常ニ正確ナモノヲ作ルト云フ目的ヨリモ、大體ノ國民ノ所得ハドウデアアルカト云フ所ヲ狙ヒマシタ爲ニ、現在ノヤウナ正確性ガナイ、其ノ點ハ私共ノ所デモ、是ハ決シテ正確ダカラ此ノ通りデアルト云フコトデ出シタノデハナイノデ、斯ウ云フ方法デ計算シタ場合ニ此ノ數ガ出ルノデスカラ、其ノ發表ヲスル際ニハ計算ノ方法ヲ附加ヘテ發表シテ居リマス

○堀切委員長 西川君、總理及ビ商工大臣ハ差支ヘテ來レナイサウデアリマスガ、大藏大臣ガ居リマスカラ、大藏大臣ノ方ニ御質問ヲ願ヒタイト思ヒマス

○西川委員 私ハ第一ニ我國ノ財政ノ全般ノ見透シニ付テ、御尋致シタイノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ曩ニ中村委員ヨリモ御質問ガアリマシテ、又本會議及ビ豫算總會等ニ於テモ、色々御質問應答ガアツタコト存ジマス、私出來得ル範圍ニ於テソレ等ノ點モ参照ハ致シマシタガ、尙ホ本案

○川島政府委員 農家ハ農産物ノ總額カラ農産物ヲ作ル爲ニ製シタ費用ヲ引イタ殘リヲ純收益ト見テ居リマス

○堀切委員長 如何デセウ、尙ホ色々希望ニ滿タヌ點ガアルガ、此ノ後十分ニ必要ナ研究ヲシテ發表シテ戴クト云フコトニ致シマシテ、此ノ點ハ此ノ程度デ措クコトニシテ、是ガ爲ニ國民ハ費用ヲ惜シマススト云フコトデ……

○川島政府委員 先程カラ段々ノ御尋ガアリマシタノデ、ソレニ付キマシテ一言申上ガデ置キタイト思ヒマス、此ノ國民所得ノ調査ト云フノハ、最初起リマシタ趣旨ガ、非常ニ正確ナモノヲ作ルト云フ目的ヨリモ、大體ノ國民ノ所得ハドウデアアルカト云フ所ヲ狙ヒマシタ爲ニ、現在ノヤウナ正確性ガナイ、其ノ點ハ私共ノ所デモ、是ハ決シテ正確ダカラ此ノ通りデアルト云フコトデ出シタノデハナイノデ、斯ウ云フ方法デ計算シタ場合ニ此ノ數ガ出ルノデスカラ、其ノ發表ヲスル際ニハ計算ノ方法ヲ附加ヘテ發表シテ居リマス

○堀切委員長 西川君、總理及ビ商工大臣ハ差支ヘテ來レナイサウデアリマスガ、大藏大臣ガ居リマスカラ、大藏大臣ノ方ニ御質問ヲ願ヒタイト思ヒマス

○西川委員 私ハ第一ニ我國ノ財政ノ全般ノ見透シニ付テ、御尋致シタイノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ曩ニ中村委員ヨリモ御質問ガアリマシテ、又本會議及ビ豫算總會等ニ於テモ、色々御質問應答ガアツタコト存ジマス、私出來得ル範圍ニ於テソレ等ノ點モ参照ハ致シマシタガ、尙ホ本案

○川島政府委員 農家ハ農産物ノ總額カラ農産物ヲ作ル爲ニ製シタ費用ヲ引イタ殘リヲ純收益ト見テ居リマス

○堀切委員長 如何デセウ、尙ホ色々希望ニ滿タヌ點ガアルガ、此ノ後十分ニ必要ナ研究ヲシテ發表シテ戴クト云フコトニ致シマシテ、此ノ點ハ此ノ程度デ措クコトニシテ、是ガ爲ニ國民ハ費用ヲ惜シマススト云フコトデ……

○川島政府委員 先程カラ段々ノ御尋ガアリマシタノデ、ソレニ付キマシテ一言申上ガデ置キタイト思ヒマス、此ノ國民所得ノ調査ト云フノハ、最初起リマシタ趣旨ガ、非常ニ正確ナモノヲ作ルト云フ目的ヨリモ、大體ノ國民ノ所得ハドウデアアルカト云フ所ヲ狙ヒマシタ爲ニ、現在ノヤウナ正確性ガナイ、其ノ點ハ私共ノ所デモ、是ハ決シテ正確ダカラ此ノ通りデアルト云フコトデ出シタノデハナイノデ、斯ウ云フ方法デ計算シタ場合ニ此ノ數ガ出ルノデスカラ、其ノ發表ヲスル際ニハ計算ノ方法ヲ附加ヘテ發表シテ居リマス

○堀切委員長 西川君、總理及ビ商工大臣ハ差支ヘテ來レナイサウデアリマスガ、大藏大臣ガ居リマスカラ、大藏大臣ノ方ニ御質問ヲ願ヒタイト思ヒマス

○西川委員 私ハ第一ニ我國ノ財政ノ全般ノ見透シニ付テ、御尋致シタイノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ曩ニ中村委員ヨリモ御質問ガアリマシテ、又本會議及ビ豫算總會等ニ於テモ、色々御質問應答ガアツタコト存ジマス、私出來得ル範圍ニ於テソレ等ノ點モ参照ハ致シマシタガ、尙ホ本案

○川島政府委員 農家ハ農産物ノ總額カラ農産物ヲ作ル爲ニ製シタ費用ヲ引イタ殘リヲ純收益ト見テ居リマス

○堀切委員長 如何デセウ、尙ホ色々希望ニ滿タヌ點ガアルガ、此ノ後十分ニ必要ナ研究ヲシテ發表シテ戴クト云フコトニ致シマシテ、此ノ點ハ此ノ程度デ措クコトニシテ、是ガ爲ニ國民ハ費用ヲ惜シマススト云フコトデ……

○川島政府委員 先程カラ段々ノ御尋ガアリマシタノデ、ソレニ付キマシテ一言申上ガデ置キタイト思ヒマス、此ノ國民所得ノ調査ト云フノハ、最初起リマシタ趣旨ガ、非常ニ正確ナモノヲ作ルト云フ目的ヨリモ、大體ノ國民ノ所得ハドウデアアルカト云フ所ヲ狙ヒマシタ爲ニ、現在ノヤウナ正確性ガナイ、其ノ點ハ私共ノ所デモ、是ハ決シテ正確ダカラ此ノ通りデアルト云フコトデ出シタノデハナイノデ、斯ウ云フ方法デ計算シタ場合ニ此ノ數ガ出ルノデスカラ、其ノ發表ヲスル際ニハ計算ノ方法ヲ附加ヘテ發表シテ居リマス

ノ審議ニ當リマシテ、十分ニ此ノ點ニ吾々ノ見解ヲ確立スルコトガ出來マセヌノデ、大藏大臣ニ對シテ此ノ問題ニ付テ御質問ヲ致シテ見タイト思フデアリマス

バ、多少減少サレテ居ルヤウデアリマスケ
レドモ、尙ホ本年度ニ於テハ今後追加豫算
ヲ相當當局ニ於テ御用意ニナリツツアルヤ
ウニ伺フデアリマス、是等追加豫算ニ計
上致サレマス赤字公債ノ額ヲ合計致シマス
ナラバ、此ノ大増稅ヲ致シマシテ尙ホ前年
ヨリモ、赤字公債ガ増加致スノデハナイカ
ト思フデアリマス、是ニ於テ私ガ御伺致
シタイコトハ、大體大藏大臣ノ肚ノ中ニ持
ツテ居ラレマス追加豫算ノ總額ハ、ドノ程
度出サレレ御見込デアリマスカ、第二ハ、
追加豫算ノ財源トシテ國債以外ノモノヲ、
何カ御考慮ニナツテ居ラレマスカ、結局十
五年度ノ赤字公債ノ總額ハ、如何程發行サ
レルコトニナツテ居リマスカ、以上ニ付キ
マシテ御答辯ヲ得タイと思ヒマス

○櫻内國務大臣 我國ノ財政ノ見透シニ付キ

マシテハ、度々申上ゲマシタ通り、今日支那
事變ヲ抱ヘテ居リマシテ、之ニ要スル所ノ
費用ガ少カラズ要ルコトハ、御承知ノ通り
デアリマス、殊ニ國際情勢ノ關係其ノ他カ
ラ致シマシテ、國防ノ充實ニ一層力ヲ盡サ
ナケレバナラス事柄デアリマスノデ、旁
致シマシテ今後ノ財政ノ見透シト致シマシ
テハ、支那事變ノ終結如何ガ懸ツテ財政ニ
影響ヲ致シテ來マスノデ、一概ニハ申スコト
ガ出來マセヌケレドモ、今日ノ情勢カラ申
シマス、容易ニ國費ガ大ナル減少ヲ致サ
ナイト云フ考ヲ持ツテ居リマス、隨ヒマシ
テ將來財政上ノ建前ト致シマシテハ、之ニ
對應スルダケノ案ヲ立テナケレバナラスノ
デアリマスケレドモ、今日只今公債ヲ今後
幾ラ發行シテ、其ノ公債ノ償還スル爲、並
ニ其ノ公債ノ利子ヲ拂フ爲ニ幾ラ要スルカ
ラ、斯ウ云フヤウナ建前ニ於テ財政計畫ヲ

確立シテ行クト云フ事柄ヲ、今日確定致ス
ト云フコトハ可ナリ困難ガアルデアリマ
ス、隨ヒマシテ今回ノ増稅ノ如キモ、公債
ノ利子及ビ減債基金ト云フモノヲ目標ニ置
イタノニアラズシテ、要スルニ現在ノ國情
カラ言ヒ、國民ノ負擔力ヲモ考ヘ、又經濟上
ノ實勢ヲモ考ヘマシテ、此ノ程度ノ負擔ヲ
願ツテ差支ナイデアハナイカト云フノ決定
致シタモノデアリマス、隨ヒマシテ將來ノ
財政計畫ニ付キマシテハ、自ラ其處ニ確
ル方針ヲ決定致サナケレバナリマセヌガ、
ソレニハ今ノ事變ニ對スル見透シヲ確實ニ
付ケナケレバナリマセヌケレドモ、今此ノ
見透シトシテ事變ガ何年デ済ム、隨テ何年
後ニハドウ云フ財政計畫ヲ立テルト云フコ
トニ付キマシテハ、今日未ダ申上ゲル機會
ニ到達致シテ居ラナイデアリマス

尙ホ現在支那事變ノ解決ニ對スル見透シ
ガ付キ兼ネルカラ、財政ノ前途ニ對スル見
透シガ付カヌ、財政ノ基礎ヲ確立スルコト
ガ困難ナル、隨テ言葉ヲ惡ク言ヒマスナラ
バ、其ノ日暮シ的ニ、先ノコトハ先デ考ヘル
ト云フコトデヤツテ行クヨリ外ニハ致シ方ガ
ナイ、斯ウ云フ御考デアルヤウニ承ツタノデ
アリマスガ、私ハ此ノ非常ナル大増稅、此ノ劃
期的ノ稅制改革ヲナサレルニ當リマシテハ、左
様ナ心構ヘデ御出シシナルト云フコトハ妥當
デナイト思フ、ソレデハ國民ハ承服シ難イ
ト私ハ思フ、少クモ現在ノ政府當局ニ於カ
レマシテモ、亦國民ト致シマシテモ、最早支
那事變其ノモノニ對スル一ツノ肚ヲ決メナ
クテハナラス、今回ノ稅制ハ、支那事變臨
時特別稅トシテ増徴サレマシタモノガ故ニ
恒久化スル、最早ハ臨時デハナイ、隨ツ
テ此ノ稅制ヲ基礎ト致シマス財政ハ、是ハ
臨時的ナ財政デハナクテ、恒久的ナ財政、
平時財政トシテ吾々ハ考ヘテ行カナクテハ
ナラヌト思フデアリマス、詰リ支那事變
ガ解決シタカラト云ツテ、吾々ハ歳出ニ著
シキ減少ヲ來サウトハ豫想シ能ハナイ、即
チ私ハ臨時軍事費特別會計ノコトハ別ニ致
シマシテ、一般會計ニ於キマシテハ支那事變
ガ終熄シタカラト云ツテ、是ガ著シク減少
スルモノトハ思ヘナイ、隨テ臨時軍事費ノ
點ヲ切離シテ、一般會計ニ於テ、セメテ前
途ニ對スル見透シヲ付ケ、前途ニ對スル計
畫ヲ立テテ行カナケレバナラス時機ニナツ
テ居ルト思フデアリマス、隨テ此ノ場合
支那事變特別會計ハ、何時一應ノ處理ヲサ
レル御心組デアリマスガ、支那事變ノ解決
ノ時機等ニ付キマシテハ、興亞院長官等ヨ
リ他ノ機會ニ於テ御發表ガアツタヤウデゴ

ザイマスガ、財政當局ト致シマシテハ、此
ノ空前ノ軍事費、而モ長期ニ亘リマシテ一
會計年度ニ依ツテ支出サレテ居リマス此ノ
特別會計ヲ、何時頃ニナツタラ一應ノ處置
ヲサレルデアルカ、興亞院長官ノ説明サ
レマス支那事變解決ノ時機ト云フモノハ、
サウ短イ期間ニ吾々ハ期待スルコトハ出來
ナイノデゴザイマスガ、其ノ興亞院長官ガ
言明サレマシタヤウナ支那事變ノ終局的ナ
解決ノ機會ガ來ナケレバ、支那事變特別會
計ハ現狀ノ儘ニ置クノデアルカ、ソレガ財
政當局トシテ適當ト認メラレルカ、一國財
政ノ經理ノ上ニ於テ、サウ長イ間非常ニ厄
大ナル金額ガ一會計年度ノ下ニ於テ處理サ
レルコトヲ、其ノ儘ニシテ宜シイカドウ
カ、之ニ對スル大藏大臣ノ御見解ヲ御示シ
願ヒタイ

○櫻内國務大臣 最初ノ御話ハ追加豫算ト

シテ出ス所ノ赤字公債ノ輪廓ト云フコトデ
アリマスガ、是ハ今折衝中デアリマシテ、
私ガ茲ニ輪廓ヲ申シマス、ソレガ直チニ
影響致シテ來ル關係ガアリマスノデ、是ハ
暫ク御猶豫ヲ願ヒタイと思ヒマス
ソレカラ財政計畫ニ對シテ其ノ日暮シデ
ハナイカト云フ御話デアリマスガ、此ノ問
題ニ付テハ先般來申上ゲマシタ通り、大體
ニ於テ現在國費ガ減少致サナイト云フ見地
デ、日本ノ財政ノ基礎ヲ確立スルト云フ見
地カラ、今回ノ増稅ヲ圖ツタノデアリマシ
テ、一面カラ申セバ、今日ノ増稅ハ先刻來
申ス通り、公債ノ元利償還ニ當ル金額以上
ニナルノデアハナイカト云フ御話デアリマス
ガ、其ノ見當デ決メタ譯デアリマセヌケ
レドモ、日本ノ財政ガ將來非常ナル危機ニ
瀕スルヤウナコトノナイヤウニト云フ見地

カラ定メタノデアリマシテ、詰リ今御話ノ如ク支那事變臨時事件費以外ノ國費ハ、當分減少シナイ、此ノ見地カラ此ノ増稅案ヲ立テ、而シテ財政計畫ヲ立テ居ルヤウナ譯デアリマス、唯私ノ申シマシタノハ、今日マデ既ニ二百十億ニナツテ居ル龐大ナル公債ヲ、ドウ云フ風ニシテ償還シテ行クノカ、ソレカラハ其ノ儘ニシテ置イテドウヤツテ行クノカ、即チ根本的ニ日本ノ財政ヲ立直シテ、此ノ公債ノ負債ヲ減ラスト云フ風ナ方法ニ付キマシテハ、支那事變ノ見透シガ付イデ、ソコニ初メテ確立セラルベキモノト考ヘテ居ルノデアリマシテ、今日只今ノヤウナ情勢ガ續キマシテモ、日本ノ財政ハ決シテ懸念ノナイモノデアル、今回ノ増稅ヲ致シマシタ結果ト致シマシテハ、其ノ點ニ付テ非常ナ危懼ヲ總テ一掃シ得ル、

ノ終結シタ時ニ、今度ハ特別會計ヲ無クスルコトハ勿論デアリマスケレドモ、其ノ以前ト雖モ事態ガ變ツテ來マシテ、サウシテ此ノ特別會計ヲ廢止シ得ル時期ガ來マシタナラバ、一日モ早ク是ハ打切りタイト云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマス

○西川委員 私ハ現在ノ日本ガ抱ヘテ居リマスル龐大ナル國債ノ償還計畫ト云フコトマデガ、現在確立シナクテハナラスト云フ意味ニ於テノ前途ノ見透シヲ御尋シタノデハナイノデアリマス、只今大藏大臣ガ言ハレマシタヤウニ、現狀ノ儘續イデ、而モ先般來非常ナ異變ガナイ限リニ於テハ増稅ハシナイノデアルト、斯ウ云フ言明モアツタノデゴザイマスルガ、私ハ現在ノ此ノ財政ノ趨勢カラ行キマシテ、果シテ其ノ大藏大臣ノ言明通りノヤウニ、又此ノ稅制ノ下ニ於キマシテノ財政ノ運営ガ出來得ルカドウカト云フ點ニ疑問ヲ持ツノデアリマス、隨テ其ノ疑問ノ點ニ付テ是カラ質問ヲ進メルノデアリマスガ、特ニ支那事變ノ特別會計ハ、事變ガ終局ノニ解決シナクテモ、適當ノ時ニ處理スルカドウカ考ヘテ見ルト云フ御意見デアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ少クモ支那事變ノ目的ガ變ツテ來ル、所謂出兵ノ意義ガ變ツテ參リマシタナラバ既ニ此ノ事變ニ對スル國民ノ觀念ト、其ノ新ナル局面ニ於ケル國民ノ觀念ハ大キナ變リガアルト思フ、單ナル事變費トハナラズシテ、大キナ興亞國防計畫トデモ申シマスルカ、非常ニ大キナ意味ニ於テノ國防計畫ノ遂行ニナツテ來ルト思フノデアリマシテ、隨テソレニ即應スベキ財源ヲ確立シ、ソレニ適當ナル形體ノ財政ヲ確立サセルコトハ、極メテ必要ナコトデアルト私ハ存ジマ

ス、隨テソレ等ニ對スル根本ノ確立ハ適當ニ速ニナサレンコトヲ、私ハ希望ト致シテ述ベテ置ク次第デアリマス

○西川委員 我國ノ一般會計ノ前途デアリマスルガ、此ノ支那事變特別會計ヲ處理サレタト致シマシテ、其ノ際ニ私ハ一般會計ニ引繼ガレマシテ、一般會計ノ歳出入ノ増大ヲ來スベキ部分ガ相當ニアルノデハナイカト思ツテ居リマス、此ノ事ヲ今日ノ場合國民ハ覺悟シテ居ナカッタナラバ此ノ事變費特別會計ノ處理ガ行ハレマシタ時ニ又非常ナル驚キヲ以テ迎ヘナクテハナラヌヤウナコトニナリハシナカイト思フ、是ハ大藏大臣トシテハ大體ノ見透シガ付イテ居ル筈デアリマスカラ、此ノ際相當ノ部分ガ一般會計ニ更ニ繰込マレテ、一般會計ノ膨脹ヲ見ルニ至ルノデハナイカ、此ノ點ニ對スル大藏大臣ノ見解ヲ御披露願ヒタイノデアリマス、ソレカラ現在本年度ニ於キマシテハ、先般森委員ヨリ指摘サレ、問題ニサレマシテ色論議サレマシタヤウニ、支那事變特別會計ヘ稅收入ノ方カラ六億圓ノ繰入ヲ致シテ居ラレマス、之ヲ事變費ニ繰入ヲ致サレテ居リマスルト、此ノ六億圓ニ相當スル稅ノ分ハ、或ハ事變費特別會計ガ處理サレタ曉ニ於テハ、是ハ減稅サレルノデハナイカ、今ハ空前ノ大戰爭ノ遂行中デアアルカラ、此ノ重イ負擔ハ我慢シナケレバナラヌケレドモ、此ノ經理ガ一應處理サレタ曉ニ於テハ、ソレダケハ減稅サレルノデハナイカト云フ期待モ國民ハ持チマス、又ソレヲ呪咀サレルヤウナ形ニモナツテ居ルノデアリマスガ、之ニ對シテモ此ノ際ハツキリシタ見解ヲ御述べ願ヒタイ、又明年度ニ於テモ更ニ稅收入ノ相當部分ヲ、事變費特別會計

ニ繰込マレテ行カレル方針デアルカドウカ、此ノ三點ニ付キマシテ御答ヲ願ヒマス

○櫻內國務大臣 事變解決後一般會計ガ非常ニ膨脹スルデハナイカト云フ御話デアリマスガ、今日只今ソレガドウ位ノ程度ニ膨脹スルカト云フヤウナコトハ考ヘラレマセスケレドモ、支那ノ新中央政府ガ安全ニ發達シテ、其ノ國防並ニ治安一切ヲ擔任シテ行ク力ガ出來ルヤウニナリマシタナラバ、日本ガソレニ對シテ非常ナ負擔ヲシテ行クト云フヤウナコトハ、私ハアリ得ナイダラウト思ヒマスガ、當分ノ間ハ、過渡的ノ間ニ於キマシテハ、其ノ點ニ付テ我國ニ於テ相當ナ犧牲ヲ拂フ言ヒマスカ、助力ヲ致スト言ヒマスカ、或ハ假ニ貸シテ置クト言ヒマスカ、サウ云フヤウナ事柄ガ多少考ヘラレルト思ヒマスケレドモ其ノ他ニ於キマシテモ亦東亞新秩序ノ建設ニ付キマシテハ、相當ノ開發ノ費用モ要リマスルシ、經濟合作ニシマシテモ相當ノ投資モ要リマスノデ、完全ニソレ等ノ新投資ノ働ヲ致シマスマデハ、或ル程度ノ經費ヲヤハリ國內ニ於テ負擔シナケレバナラヌノデアリマスカラ、假ニ此ノ支那事變費ガ急ニ解決シテ、此ノ特別會計ヲ廢メルトガ出來得ルヤウナ事態ガ幸ニ出來タト致シマシテモ、當分ノ間ハ少カラザル經費ヲ日本デ負擔シテ行クト云フコトガ起ツテ來ハシナイカト云フコトヲ、今考ヘテ居リマスケレドモ、是ハ今後ニ於ケル折衝其ノ他事態ノ推移ノ狀態ニ依リマシテ、決定スルコトデアリマシテ、今直チニドウ程度マデ、日本ノ一般會計ガ膨脹スルト云フコトヲ申上ゲル場合ニ立到ツテナイト思ヒマス、唯多少少カラザル費用ガ殖エルト云フコトハ、覺

少カラザル費用ガ殖エルト云フコトハ、覺

悟シテ行カケレバナナイト思ヒマス
レドモ、今日支那事變費ヲ負擔シテ居ルト
云フ場合ニ比ベテ見マスルト、其ノ金額ハ
寧ロ減少スルデアラウ、斯様ニ考ヘテ居ル
ノデアリマス、ソレカラ六億圓ノ金ヲ軍事
費ノ中ニ入レテ居ルガ、是ハ事變ガ濟シダ
ナラバ減税ニ振當テラレル意味ガアルノデ
ハナイカト云フコトヲ、國民ガ思ツテ居ル
ト云フ御考デアリマスガ、御承知ノ通り二
百億以上ノ國債ヲ持ツテ居リマス現狀カ
ラ言ツテモ、又新東亞建設ニ對スル費用ノ
點カラ言ヒマシテモ、更ニ國防充實ノ上カ
ラ言ヒマシテモ、更ニ東亞ノ大發展ヲ期ス
ル爲ニ生産擴充ヲ致ス上カラ言ヒマシテモ、
中々國費ト云フモノハ増大致ス傾向ニアル
ノデアリマシテ、此ノ事變ガ濟ミマシテ直
チニ其ノ六億圓ト云フモノガ減税ニ振向ケ
ラレルト云フコトハ豫期ガ出來ナイト思ヒ
マス、勿論先刻來申通り、從來ノ負債ニ對
シテ一定ノ方針ガ立ツテ、サウシテ其ノ償還
方法、等モ確定致シテ、當時ノ國情ガ許ス
ナラバ出來得ル限り減税ヲ致スト云フ事柄
ハ、今回ノヤウナ増税ヲ致シタ後ニ於テハ、
當然致サナケレバナラスコトデアリマス
レドモ、今日カラ事變ガ濟メバ減税ヲスル
ノダ、斯ウ云フ風ニ考ヘマスコトハ、私ハ
決シテ當ラ得タモノデナイト思ヒマス、勿
論事變費ノ中デ輕減ヲシナケレバナラスモ
ノトカ、或ハ臨時ニ取ツタモノデアリマ
スカラ、或ハ廢メナケレバナラスモノガ起
ルカモ知レマセヌガ、ソレハ其ノ時ニ於テ考
慮ヲ致スベキモノデアリマシテ、今日此ノ
支那事變ガ解決シタカラ、直チニ減税ス
ルト云フコトハ、今豫想ガ出來ナイノデア
リマス

○西川委員 只今御答辯ヲ御伺致シマシテ、
其ノ御言葉ヲ仔細ニ吟味致シマシテモ、言
葉其ノモノノ中ニ色々ナ疑問ヲ含ムノデア
リマス、私共ハ支那事變ノ臨時軍事費ノ中
ニ見込マレテ居ルモノガドンナ費用デア
ルカハ、一切知ルコトヲ許シレマセヌ、併シ
ナガラ察知致シマスニ、ソレハ事變解決
ノ後ニ於テモ、一般會計ニ繰込マレテ之ヲ維
持シテ行カケテハナラヌモノガ可ナリ
アルヤウニ推測サレルノデアリマス、只今其
ノ點ニ付テ、吾々ハ大體ノ輪廓デモ、茲ニ
見透シテ付ケタイノデアリマスガ、大臣ノ
御答辯デハ多少少カラズト云フヤウニ言ハ
レテ居リマスシ、其ノ多少少カラズハ勿論
現在ノ軍事費ヨリカ少イダラウ、斯ウ言ハ
レマスケレドモ、現在ノ軍事費五十億、六十
億ト云フモノガ、多少少カラズト云フヤウ
ナ形容デ現ハセルモノデハナイノデアリマ
ス、多少少カラズ、現在ノ費用ヨリカ少イ
ト云フ間ニ、今少シ私共ハ肚ヲ決メルニ足
一ツノ輪廓ヲ讀取リタイト思フノデアリマ
ス、併シ兎モ角モ之ニ依リマシテ、平時財
政ニ於テ現在ヨリモ容易ニ減ラナイト云フ
コトデハアリマセヌ、ソレハ吾々初メカラ
豫想致シテ居リマスルガ、減ラナイトコロデ
ハナイ、大イニ増加スルコトヲ、只今ノ御答
ニ於テモ、既ニ示唆サレテ居ルノデアリマス、
大イニカ多少少カラズカ存ジマセヌケレドモ、
兎モ角モ増加スル、ソコデ増税ハ大體ニ於
テハモウ此ノ上ノ増税ハシナイト言ハレタ
ノデアリマスケレドモ、増税ヲサレズニ是
等ノ歳出ヲ賄ツテ行カウト致シマスナラ
バ、ソコニ非常ニ大キナ稅收入ノ自然増加
ガ見込マレ得ルノデアルカ、若クハ此ノ上
更ニ赤字公債ヲ累増セシメテ行クノデア

カ、二ツヨリ途ハナイ、ソコデ具體的ニ御伺
致シマス、本年ノ歳出ノ増加ノ中デ、少カ
ラザル部分ヲ國債ノ利子及ビ恩給、年金ノ
増加、是ハ二億圓ヲ超エテ居ルヤウニ思ヒ
マスルガ、是等ノ歳出ノ自然膨脹ノ額ガ、
今後年々ドノ位自然的ニ膨脹シテ行クモノ
ト押ヘラレルノデアルカ、ソレニ對シマシ
テ租稅收入ノ自然増加、此ノ稅制改革ニ依
ル今後ノ年度ノ進行ニ依ル自然增收ガ、ド
ノ位アルト押ヘラレテ居ルカ、更ニ本年度ノ
豫算ト明年度ノ豫算トノ自然増加ノ趨勢ヲ
考ヘル場合ニ於キマシテ、極メテ重要ナノハ、
各方面ニ於テ問題ニナリマシタケレドモ、
基準物價、之ヲ十三年ノ物價ニ於テ爲サレ
テ居リマスル、ソレガ明年度ノ豫算編成ニ際
シマシテモ、其ノ基準物價ヲ其ノ儘維持シ
得ルト御考ニナツテ居ラレマスカ、若シ明
年度ノ豫算編成ヲ、自然ノ物價ノ趨勢ニ即應
サセマス時ニハ、其ノ物價騰貴ニ因ル自然
増加ハ、ドノ程度ニナルト見込マレテ居
マスルカ、之ニ對シマシテ御答辯ヲ御願致
シマス

○櫻内國務大臣 多少少カラズト云フノハ
少シ語弊ガアツタト思ヒマスガ……ソレカ
ラ自然增收ヲドウ見テ居ルカト云フ御話デ
アリマスガ、今日マデノ豫算カラ見マス、
昭和十二年度ニ於テ六千五百萬圓前年度豫
算ヨリ増加致シテ居リマス、十三年度ハ一
億六千五百萬圓増加致シテ居リマス、十四年
度ニ於キマシテハ、二億五千五百萬圓増加
致シテ居リマス、斯ウ云フ風ナ増加ヲ致シ
テ居リマスガ、併シ是ハ經濟界ノ狀況ニ因
ルノデアリマスシ、又政府ノ仕事ノ工合等
ニモ因ルノデアリマシテ、一概ニ此ノ自然
增收ト云フモノガ、ドノ程度ニ進行致シテ
行クカト云フ事柄ハ、今急ニ豫斷ヲ許サヌ
ト思ヒマス、併シナガラ日本ノ經濟力ガ發
展致スニ連レマシテ、自然ニ増加致シテ行
クコトダケハ間違ヒナイデアラウト思ツテ
居リマス、餘程恐慌ノヤウナモノガ起ツテ
來ザル限りハ、自然ニ増加致シテ行クノデ
アラウト思ヒマスガ、其ノ數字ハ今ノ所マ
ダ斯ウ云フ風ナ數字デアルト云フコトニ決
メテ掛ツテ居リマセヌケレドモ、或ル增收
ト云フコトニ付キマシテハ、見當ヲ付ケテ
居ル譯デゴザイマス、ソレカラ恩給年金等
ガ非常ニ増加スル、ソレヲ償ツテハドウカ
ト云フ御話デアリマスガ、此ノ恩給年金モ、
實ハ事變以來非常ナ増加率ヲ辿ツテ居ルノ
デアリマシテ、昭和十年頃デアリマス
四五百萬圓程ヨリ、年々年金ガ殖エテ居
マセヌ、然ルニ最近十二年カラニナリマス
ト、千二百萬圓ニナリ、ソレカラ十四年度
ノ豫算ニ於キマシテハ四千五百萬圓、ソレ
カラ十五年度ノ豫算ニナリマシテハ五千三
百萬圓程増加致シテ居ルヤウナ譯デアリマ
ス、斯ウ云フ狀況デアリマスノデ、殊ニ事
變ガ終了致シマス、又更ニ増加スルモノ
ト考ヘナケレバナリマセヌノデ、是ト見合
ツテドウ斯ウト云フコトハ、直チニ申上兼
ネマスケレドモ、此ノ恩給年金ノ自然増加
ト云フモノヲ……

○西川委員 ソレト公債ノ利子……
○櫻内國務大臣 公債ノ利子ハ、御承知ノ通
リ非常ニ公債ガ殖エルノデアリマシテ、
其ノ公債ノ殖エタ利子ト、ソレカラ恩給年
金トヨリ自然增收ニ依ツテ賄フト云フ事柄ハ
可ナリ困難デハナカラウカト、斯様ニ考ヘ
テ居リマス、ソレカラ明年度ノ豫算、即チ
昭和十六年度ノ豫算ヲ編成スルニ當ツテ、

昭和十三年度ノ基準單價ヲ基調トスルカド
ウカト云フ御話アリマスガ、是ハ私未ダ
事務當局トハ協議致シマセスケレドモ、其
ノ點ハ更ニ改メナケレバナラヌモノデハナ
カラウカト考ヘテ居リマシテ、其ノ心組ミ
デ進ミタイト思ツテ居リマス

○西川委員 モウ一言御尋シテソレデ打切
リマス、只今ノ御答辯ニ依リマスルト、國
債利子ト恩給年金ノ自然増加、自然膨脹額
其ノモノヲスラ、此ノ租稅ノ自然増収ニ依
ツテ賄フコトガ困難デアラト云フ見込ノヤ
ウデアリマス、然リトスレバ他ノ事情ニ依
ツテ自然ニ膨脹致シマスモノハ、何ニ依
ツテ御賄ヒニナルカ、増稅ハ自然ノ趨勢ヲ
迎ル間ハシナイト云フコトデアリマスガ、
既ニ公債利子ト恩給年金ノ自然膨脹ノ
賄フコトスラ、租稅收入ノ自然増加ニ依
ツテハ困難デアル、然ラバ他ノ事情ニ依ツ
テ尙ホ歲出ハ自然ニ膨脹スル、是ハ經濟ノ
發達スル限リ必ズアルノデアリマス、之ヲ
賄フ財源ガナイノミナラズ、本年度豫算ニ
於テ新ニ計上サレマシタ費目ノ中ヲ分析シ
テ見マスルト、生産力ノ擴充ニハ、明年度
ヲ俟タズシテ、本年度ノ追加豫算ニ於テ、
更ニ大キナ數字ガ出テ來ルデアリマセウ、
其ノ他將來之ヲ減少シ得ル費用ト云フモノ
ハ、殆ド吾々ハ此ノ中カラ發見スルコトガ
出來ナイ、是等ノ膨脹、加フルニ事變費ガ
打切ラレタ時ニハ、尙ホ其ノ方カラ少ナカ
ラザル部分ガ、一般會計ノ中ニ入り込メ
來ルト云フコトニナリマスルト、何ヲ以テ
ソレ等ノ歲出ヲ賄ハントスルノデアルカ、
致方ナイカラ赤字公債ヲ出シテ行ク、斯ウ
云フ結論ニナラザルヲ得ナイト思フノデア
リマス、サウシテ此ノ赤字公債ニ對シマシ

テハ、大藏大臣ハ民政黨ノ領袖トサレマシ
テ、所謂公債漸減方針、新規發行ヲ成ベク
シナイト云フ方針ヲ、過去ニ於テハ可ナリ
堅持サレテ居ツタト吾々ハ伺ツテ居リマス
又此ノ委員會ニ於キマシテモ、好マシクナイ
ト云フコトヲ言明ニナツテ居ルノデアリマ
ス、其ノ大藏大臣ノ好マレナイ所ノ、而モ
一部ノ財政理論家カラ申シマスルト、絕對
ニ左様ナコトハ不可デアル、此ノ爲ニハ可
ナリ大キナ犧牲スラモ拂ツテ、其ノ爲ニハ
國內ニ大キナ相剋摩擦ヲスラ惹起シテモ堅
持シヨウトシタ公債漸減ノ方針ガ、好ムト
好マザルトニ拘ラズ、茲ニ打破ラレテ行カ
ナケレバナラヌ此ノ社會情勢、櫻内大藏大
臣ノ下ニ於テモ數字ハ必然的ニ赤字公債ヲ
累増セシメナケレバラス此ノ社會情勢、
之ヲ如何ニシテ解決スルカ、之ヲ解決スル
一ツノ方策ヲ持タズシテハ、今日輔弼ノ責
ヲ果スコトハ出來ナイト私ハ信ズル、是ハ
單ナル財政現象ダケデハナイ、今日我國ノ
政局ノ不安、社會不安ノ其ノ根源ハ、此ノ
財政現象ニ表現サレテ居ル所ノ矛盾ニアル
ノデアリマス、此ノ矛盾ヲ打開セズシテハ、
此ノ社會ノ不安ヲ一掃シ、國家ノ安泰ヲ圖
ルコトハ出來ナイト思フ、ソレニハ既ニ此
ノ上ニ増稅ヲナサルコトモ困難デアリ、サ
レバト赤字公債ヲ累増ノ儘ニ放任スルコ
トモ困難デアル、増稅ニ依ラズ、赤字公債
ニ依ラズ、何等カノ新シキ構想、新シイ歲
入ヲ求メル爲ニ、新シイ構想ノ下ニ財政計
畫ヲ立テルト云フコトヲ、ドウシテモナサ
ラナケレバラス時機ニ達シテ居ルト思フ
ノデアリマス、詰リ吾々ハ茲ニ財政ノ技術
的ノ論議ヲスルノデハナイ、徵稅ノ技術的
ノ論議ヲスルノデハナイ、日本ノ當面ノ要

求シテ居ル場面ハ、全ク著想ヲ變ヘテ、新
ナル構想ノ下ニ財政ノ基礎ヲ確立シナカッ
タナラバ、日本ノ前途ハ永久ニ光明ヲ發見
スルコトガ出來ナイ、少クモ財政現象ヲ通
シテ見ル限リニ於テ、光明ヲ發見スルコト
ガ出來ナイト云フコトヲ、吾々ハ認メザル
ヲ得ナイノデアリマスガ、此ノ點ニ對シマ
シテ、大藏大臣ハ如何ナル見解ヲ覺悟ヲ持
ツテ臨ンデ居ラレマスカ、是ダケ聽イテ置
キタイノデアリマス

○櫻内國務大臣 先ヅ自然増収ノ問題カラ
申上ゲマス、自然増収ガドノ位アルカト云
フコトノ見當ハ、今日ノ經濟狀態カラ言ヒ
マス、相當ノ金額ガアルト思ヒマスガ、
御承知ノ通り赤字公債ノ利子並ニ恩給年金
是モ非常ニ殖エテ參リマス、赤字公債モ年
年殖エテ行クノデアリマシテ、此ノ元利ヲ
全部此ノ増収ニダケ俟ツテ、此ノ財政計畫ヲ
立テルト云フコトハ、是ハ、私ハ若シサウ云
フ立テ方ヲスレバ誤リデアラウト思ヒマス、
將來赤字公債ガ殖エテ行ク、此ノ赤字公債
ヲドウシテ行クノカ、借金ダケドシテシ
テ行ツテ宜イノカ、借金ハ出來ナイヂヤナ
イカ、私ハ西川君ノ御議論ハ拜聴致シマス
ガ、併シナガラ赤字公債ヲ出シマス時ニ、
此ノ赤字公債ノ利子並ニ償還ヲ負擔スルダ
ケノ一定ノ方針ヲ立テテ、此ノ赤字公債ニ
對シテ、其ノ利子ト、ソレカラ其ノ元金ノ
年賦償還ノ費用ニ關スル方針ヲ立テテ、
サウシテ其ノ赤字公債ニ依ツテドウ云フ
結果ヲ得ルカ、即チ生産擴充ヲ致シマ
スルナラバ、生産擴充ヲ致ス爲ニ費用ヲ
投ジタ、其ノ費用ヲ投ジタモノガ何年後ニ
國民ノ利益トナツテ現ハレテ來ルカ、其ノ
間、ソレガ現ハレテ來ル時ニハ即チ稅ニナ

ツテ現ハレテ來ル、斯ウ云フ譯デアリマシ
テ、赤字公債ノ性質ニ依リマシテハ、私ハ
赤字公債其ノモノガ、直チニ國民ニ對シテ
脅威ヲ與ヘルモノニアラズシテ、將來ソレ
ガ利益ヲ産ンデ來ルヤウナ方面ニ使ハレマ
スナラバ、私ハ此ノ赤字公債ト云フモノハ
恐ルニ足ラヌト思フノデアリマス、即チ
元來カラ申セバ、今マデ赤字公債ヲ出シマ
ス場合ニ、年々五十億圓出スト假定致シマ
シテ、其ノ五十億圓ノ利子ト、償還金トニ
對スル方針ガ茲ニ確定サレルナラバ、私ハ
更ニ國民ニ對シテ不安ヲ與ヘナイト思フ
デアリマス、ソレデ現在ニ於ケル支那事變
其ノ他ニ付キマシテハ、是ハ將來支那ト經
濟合作ヲシテ、ソレガ産ンデ來ル利益ヲ期
待シテ、之ニ依ツテ今回ノ大キナ使ツタ國
費ノ償還ニ充テル途ヲ講ジナケレバナリマ
セスガ、其ノ以外ノモノニ對シマシテハ、
國防ノ點ニ付キマシテモ、又生産擴充ノ點
ニ付キマシテモ、恐ラク私ハ將來相當ナル
利益ヲ國民ニ與ヘテ來ルモノト思ヒマス、
ナゼナラバ國防費ト云フモノヲ多ク出シ
マスガ、國防費ヲ出シマスと云フト、即チ
國內ノ重工業ガ發展スル、重工業ガ發展ス
レバ、從來外國カラ買ツテ居ツタ資材ト云
フモノヲ買ハナクナツテ來ル、資材ト云フ
モノヲ買ハナクナツテ來レバ、即チソレガ
國內ノ生産業ヲ發達セシメル、國內ノ生産
業ヲ發達セシメルコトニナレバ、ソレニ依
ツテ又稅收入ガ殖エテ來ル、他ノ平和産業
ノ生産擴充ニ於テモ同ジコトデアアルノデア
リマス、隨ヒマシテ此ノ點ニ付キマシテ
ハ、公債ノ性質、又豫算ノ使ヒ方、斯ウ云
フ點ニ於テ十分ニ檢討ヲ加ヘマシテ、是ガ
國力増進ノ爲ニ必要ダト云フ場合ニ於キマ

ツテ現ハレテ來ル、斯ウ云フ譯デアリマシ
テ、赤字公債ノ性質ニ依リマシテハ、私ハ
赤字公債其ノモノガ、直チニ國民ニ對シテ
脅威ヲ與ヘルモノニアラズシテ、將來ソレ
ガ利益ヲ産ンデ來ルヤウナ方面ニ使ハレマ
スナラバ、私ハ此ノ赤字公債ト云フモノハ
恐ルニ足ラヌト思フノデアリマス、即チ
元來カラ申セバ、今マデ赤字公債ヲ出シマ
ス場合ニ、年々五十億圓出スト假定致シマ
シテ、其ノ五十億圓ノ利子ト、償還金トニ
對スル方針ガ茲ニ確定サレルナラバ、私ハ
更ニ國民ニ對シテ不安ヲ與ヘナイト思フ
デアリマス、ソレデ現在ニ於ケル支那事變
其ノ他ニ付キマシテハ、是ハ將來支那ト經
濟合作ヲシテ、ソレガ産ンデ來ル利益ヲ期
待シテ、之ニ依ツテ今回ノ大キナ使ツタ國
費ノ償還ニ充テル途ヲ講ジナケレバナリマ
セスガ、其ノ以外ノモノニ對シマシテハ、
國防ノ點ニ付キマシテモ、又生産擴充ノ點
ニ付キマシテモ、恐ラク私ハ將來相當ナル
利益ヲ國民ニ與ヘテ來ルモノト思ヒマス、
ナゼナラバ國防費ト云フモノヲ多ク出シ
マスガ、國防費ヲ出シマスと云フト、即チ
國內ノ重工業ガ發展スル、重工業ガ發展ス
レバ、從來外國カラ買ツテ居ツタ資材ト云
フモノヲ買ハナクナツテ來ル、資材ト云フ
モノヲ買ハナクナツテ來レバ、即チソレガ
國內ノ生産業ヲ發達セシメル、國內ノ生産
業ヲ發達セシメルコトニナレバ、ソレニ依
ツテ又稅收入ガ殖エテ來ル、他ノ平和産業
ノ生産擴充ニ於テモ同ジコトデアアルノデア
リマス、隨ヒマシテ此ノ點ニ付キマシテ
ハ、公債ノ性質、又豫算ノ使ヒ方、斯ウ云
フ點ニ於テ十分ニ檢討ヲ加ヘマシテ、是ガ
國力増進ノ爲ニ必要ダト云フ場合ニ於キマ

シテハ、一時的ニ多少困難ガアリマシテモ、是ハ遂行スベキモノデアルト、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、現在赤字公債ガ年々非常ニ殖エテ居ル、是ハ私決シテ褒メタコトデハナイト思ヒマス、出來得ル限り此ノ赤字公債ヲ減シテ行クト云フコトニ付キマシテハ、考慮致サナケレバナラスト思ヒマス、ヤリ方ハ勿論色々アリマセウガ、

鬼ニ角無駄ナ國費ヲ削除スル、斯ウ云フコトデモ私ハ相當ナ金額ガ出テ來ルノデハナカラウカト云フ風ニ考ヘテ居リマス、又此ノ生産擴充ノ方面デモ、中途半端ナ仕事ニ金ヲ投ゼズシテ、速ニ出來上リ得ル生産擴充ノ事業ヲ早クヤラシテ行キマスナラバ、其ノ生産擴充ニ依ツテ得タ所ノモノガ利益ヲ産ンデ來ルノデアリマシテ、其ノ産ンデ來タ利益ガ、即チ今回發行サレル所ノ赤字公債ノ元利償還ノ働キヲ爲スヤウニナツテ來ルト思ヒマス、即チ其ノ方面ニ於テ自然増收ノ實ガ現ハレテ來ルノデハナカラウカト

思ヒマス、ソレカラ今日支那ニ向ツテ可ナリノ費用ヲ投ジテ居リマスガ、是モ遠カラズ鐵ナリ石炭ナリ、總テノ物資ガドンドン出テ來ルヤウニナリマスレバ、此ノ日本ガ投資シタ金ハ利益ヲ生ンデ來ルノデアリマシテ、相當我國ニ對シテ收入ヲ持ツテ來ルノデハナカラウカト思フノデアリマス、ソレデ要點ハ此ノ赤字公債ヲ出シタ場合ニ於テモ、其ノ赤字公債ニ依ツテ國力が衰ヘナイト云フ立場カラ案ヲ立テナケレバナラスト思ヒマス、ソレカラ今回ノヤウナ臨時事變ニ要スル赤字公債ニ付キマシテハ、適當ナ時機ニ此ノ赤字公債ヲドウ云フ風ニシテ償還シテ行クカ、此ノ赤字公債ノ償還方法ヲ確立シテ進ンデ行ケバ宜シイノデハナイカ

ト思ツテ居リマス、此ノ點ニ付テハ今回ノ増税ニ於キマシテモ、十分考慮シテ居ルノデアリマシテ、私ハ近キ將來ニ於テ、是等ノ問題ニ對シテ確定シタル對策ヲ立テテ、サウシテ國民ノ安心ヲ得ルヤウニ致シタイト考ヘテ居ルヤウナ譯デアリマス

○西川委員 只今ノ御答辯ニ基イテ更ニ究明シナクテハナラヌ點ガ多クアルノデアリマスガ、今日ハ時間ノ關係モアリマスノデ、之ニ對スル質問ハ總理大臣ニ對スル質問ト共ニ保留シテ置キマシテ、本日ハ此ノ程度ニ於テ止メマス

○堀切委員長 今日ハ此ノ程度ニシテ、明日ハ午前十時カラ開會致シマス、但シ貴族院ニ於ケル豫算審議ノ關係上、總理及ビ大藏大臣ハ午前中コチラニ出席出來ナイデアラウト思ヒマス、併シ商工大臣ニハ、大藏大臣カラコチラニ御出席ニナルヤウ一ツ御話置キヲ願ヒタイト思ヒマス、或ハ大臣ハ皆出席ガムヅカシイカモ知レマセヌガ、鬼ニ角十時カラ開クコトニ致シマシテ、今日ハ是デ散會致シマス

午後零時二十二分散會

昭和十五年二月二十二日印刷

昭和十五年二月二十三日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局